

平成 **24** 年度

ブロック別  
**劇場・音楽堂等技術職員研修会**  
実施報告書



平成 24 年度「ブロック別技術職員研修会」事業実施要領 ..... 3  
平成 24 年度 ブロック別技術職員研修会一覧 ..... 4

---

**北海道ブロック技術職員研修会** ..... 5  
開催要項 ..... 5 研修計画・日程 ..... 6 研修会記録 ..... 7

---

**東北ブロック技術職員研修会** ..... 10  
開催要項 ..... 10 研修計画・日程 ..... 11 研修会記録 ..... 12

---

**関東甲信越静岡ブロック技術職員研修会** ..... 16  
開催要項 ..... 16 研修計画・日程 ..... 17 研修会記録 ..... 18

---

**東海北陸ブロック技術職員研修会** ..... 25  
開催要項 ..... 25 研修計画・日程 ..... 26 研修会記録 ..... 27

---

**近畿ブロック技術職員・アートマネジメント(自主文化事業)合同研修会** ..... 30  
開催要項 ..... 30 研修計画・日程 ..... 31 研修会記録 ..... 32

---

**中四国ブロック技術職員研修会** ..... 36  
開催要項 ..... 36 研修計画・日程 ..... 37 研修会記録 ..... 38

---

**九州ブロック技術職員研修会** ..... 43  
開催要項 ..... 43 研修会記録 ..... 44

---

平成 24 年度 ブロック別技術職員研修会評価アンケート結果 ..... 49

# 「ブロック別技術職員研修会」事業実施要領

## 研修の目的

舞台技術業務に関わる職員誰もが知っておかなければならない基礎的知識に加え各施設の地域や特性に即したカリキュラムや危機管理等を研修に加え実施することにより舞台創造活動を支えるとともに地域の芸術活動支援、育成及び安全な舞台活用や施設の運営を行っていくための舞台技術研修会を実施する。

## 事業名、開催地、研修会実施体制等

### ブロック別技術職員研修会

開催地 北海道、東北、関東甲信越静、東海北陸、近畿、中四国、九州の7ブロック

主催 文化庁・社団法人全国公立文化施設協会（以下、全国公文協）

主管 支部

#### 実施体制

- ①原則として若手職員（経験3年以内）を対象とした研修会
- ②全国公文協会長は、支部長にブロック別研修会の実施について委任する。
- ③全国公文協会長から委任を受けた支部長は実行委員会を組織し、本研修会を実施する。また、支部長は本研修会の実施に係る決済権限を開催館館長等に委譲することができる。
- ④基本となるプログラムは、全国公文協が示し、研修の実施運営については支部長に委任する。
- ⑤研修プログラムの一部変更については、全国公文協と協議のうえ、支部に委ねることができる。
- ⑥講師については、地域や研修内容に合った適任者を各支部で選任する。  
ただし、適任者がいない場合は、全国公文協と協議のうえ、全国公文協の推薦者を選任できるものとする。

## 研修の対象

- (1) 劇場・音楽堂等に勤務する職員（指定管理者及び劇場・音楽堂等の管理・運営業務等を受託している企業等からの派遣職員も含む）
- (2) 地方自治体の文化芸術行政担当職員等劇場・音楽堂等施設関係者
- (3) 民間の舞台技術関係者、大学等の高等教育機関・舞台技術関係者、教育関係者・学生等、また関心のある市民等。
- (4) 上記(1)～(3)の研修受講者は、所属長からの受講者推薦書により、推薦を受けること。なお、個人参加の場合は受講者推薦書を必要としない。

## 研修日数

研修日数は2日以上

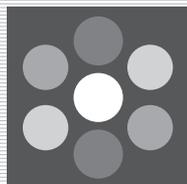
## 参加人員

研修内容、実施方法、支部の状況等により各支部が決定する。

## ブロック別技術職員研修会一覧

地区名	日程	会場	内容	参加者数 (参加施設数)
北海道	平成 24 年 9 月 11 日～ 12 日 【2 日間】	札幌市教育文化 会館	I 「舞台照明設備の運用と基本操作 1」 ～LED とは何か・舞台テレビジョンの LED 照明器具の運用～ II 「舞台照明設備の運用と基本操作 2」 ～LED 照明器具の取り扱い方～ III 「公立文化施設管理（危機管理）」	43 名 (19 施設)
東北	平成 24 年 12 月 5 日～ 6 日 【2 日間】	秋田県民会館	I 「公立劇場・音楽堂の改修に於ける課題と考察」 II 「地域の核となる文化会館——震災体験からの提言」 III 「震災のその後」パネルディスカッション IV 「舞台照明での LED 活用のメリット及び演出効果について」 (講座と実技 1) V 「舞台照明での LED 活用のメリット及び演出効果について」 (講座と実技 2)	74 名 (41 施設)
関東甲 信越静	平成 24 年 11 月 27 日～ 28 日 【2 日間】	コラニー文化 ホール	I 「公立文化施設管理（危機管理）」 II 「舞台照明設備の運用と基本操作」 III 「舞台音響設備の運用と基本操作」 IV 「実演コンサート」 V 「わが国の芸術文化概論」	88 名 (50 施設、 4 団体)
東海 北陸	平成 25 年 1 月 17 日～ 18 日 【2 日間】	富山市芸術文化 ホール (オーバード・ ホール)	I 「舞台の安全に関する基礎講座」 II 「舞台音響基礎講座」	40 名 (30 施設)
近畿	平成 24 年 12 月 3 日～ 4 日 【2 日間】	貝塚市民文化会 館 コスモシア ター	I 「基調講演」 II 「シンポジウム」 III 「演奏プラン・仕込み図・舞台仕込み」 IV 「サウンドチェック」 V 「劇場・音楽堂概論」 VI 「サウンドチェック 弾き語り&アカペラ&詩の朗読」 VII 「研修会総括」 VIII 「ミニコンサート」	63 名 (33 施設)
中四国	平成 25 年 1 月 17 日～ 18 日 【2 日間】	あわぎんホール (徳島県郷土文化 会館)	I 「劇場音楽堂概論」 II 「舞台音響設備の運用と基本操作」 ～近年の音響調整卓におけるデジタル化への変遷～ III 「舞台音響設備の運用と基本操作」 ～公立文化施設における音楽ミキシングの実際～ IV 「舞台技術管理」～舞台職員として知っておきたいこと～	51 名 (29 施設)
九州	平成 25 年 2 月 5 日～ 6 日 【2 日間】	長崎ブリックホー ル	I 「劇場・音楽堂における安全管理」 ～舞台空間の作業について～ II 「劇場・音楽堂における安全管理」 ～舞台空間の安全管理について～ III 「舞台照明設備の運用と基本操作」 ～光について考える 9 ステップ WS～	70 名 (34 施設、 7 団体)

注) 近畿ブロックは「技術職員&amp;アートマネジメント(自主文化事業)合同研修会」



# 北海道ブロック 技術職員研修会

## 開催要項

- ① 事業名** 平成 24 年度文化庁委託事業北海道ブロック技術職員研修会
- ② 趣 旨** 劇場・音楽堂の舞台技術等を管理・運営している職員を対象として、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
- ③ 主 催** 文化庁・社団法人全国公立文化施設協会
- ④ 共 催** 札幌市教育文化会館
- ⑤ 主 管** (社)全国公立文化施設協会北海道支部  
(社)全国公立文化施設協会北海道支部技術部会
- ⑥ 開催期間** 平成 24 年 9 月 11 日(火)～9 月 12 日(水) 【2 日間】
- ⑦ 会 場** 札幌市教育文化会館 小ホール  
所在地 〒090-0001 札幌市中央区北 1 条西 13 丁目  
電話 011-271-5821
- ⑧ 受講者** 劇場・音楽堂等の舞台技術担当職員(指定管理者又は舞台業務受託者に属する者を含む)、文化行政主管課等の文化芸術担当職員、その他民間関係者等



会場となった札幌市教育文化会館



## 研修計画・日程

	時 間	内 容	講 師
9月11日 (火)	13:00 ~ 13:30	受付	
	13:30 ~ 13:40	開講式	
	13:40 ~ 15:10	講座 1 (90分) 舞台照明設備の運用と基本操作 1 「LED とは何か・舞台テレビジョンの LED 照明器具の運用」	丸茂電機株式会社 開発部照明器具課 馬場洵子氏
	15:10 ~ 15:30	休憩	
	15:30 ~ 17:00	講座 2 (90分) 舞台照明設備の運用と基本操作 2 「LED 照明器具の取り扱い方」	株式会社 Art's 代表取締役副社長 前田 敬氏
	18:30 ~ 20:00	情報交換会	

	時 間	内 容	講 師
9月12日 (水)	9:00 ~ 9:30	受付	
	9:30 ~ 11:30	講座 3 (120分) 公立文化施設管理 (危機管理)	空間創造研究所 代表 草加叔也氏
	11:30 ~ 11:40	閉講式	



開講式の様子



## はじめに

実行委員会を組織し、どのような内容で研修会を実施するのか検討した結果、基本的には実務経験3年以下の職員を対象とした内容とし、今回はLED照明機材を用いての講義と実技研修等を計画する事とした。具体的な中身としては「LEDとは何か」・「どうやって開発されたのか」・「LED舞台照明器具はどこまで進歩しているのか」を照明器材メーカーの開発担当者による解説。さらには舞台上に最新のLED照明器具を設置し、

舞台照明会社等で実際にプランやオペレーターをされているスタッフの方に実技をご指導して頂ける様、講師の選任を行った。また、公立文化施設管理(危機管理)の専門的な研修を実施することにより、技術職員の危機管理に対する意識をさらに深め、技術職員個々の資質向上を図る目的で、国内外においてもご活躍されている草加叔也氏にご講義頂いた。

## 研修内容

### ①講義 1

### 舞台照明設備の運用と基本操作 1

(LEDとは何か・舞台テレビジョンのLED照明器具の運用)

[講師] 馬場洵子氏 (丸茂電機株式会社 開発部照明器具課)

舞台照明光源としてのLEDの解説。

#### ・LEDとは

個体発光素子でありPN接合の半導体で禁制帯を超えて正孔と電子の再結合の余剰エネルギーを発光に用いるエレクトロルミネセンスである。

電気を光に直接変換できるため、効率が良い。

#### ・半導体とは？

半導体は、導体と絶縁体の中間の物質である。これ

は、条件によって電気を通したり通さなかったりするものである。

#### ・LEDの発光原理

LEDは、マイナスの電子が余っているN型半導体と、マイナスの電子が足りないP型半導体とを接合し、片方向へ電流が流れるように開発されたダイオードで、P型半導体に接続されたプラスの電極(アノード)からN型半導体に接続されたマイナスの電極(カソード)へ電流が流れると、電子がP型半導体内の正孔(ホール)と結合してエネルギーが発生して光となる。

#### ・LEDの開発史

1907年 H.J.Round SiCに電圧を印加したとき様々



馬場洵子氏による「舞台照明設備の運用と基本操作1」の講義



な色の発光を報告

1950年頃まで 自然に産出される鉱物の発光現象が  
研究された

1962年 N.Holonyak GaAsPを使用した赤色LEDの開発  
に成功

1986年 赤崎勇、天野浩ら 青色LEDのための高品  
質GaNの単結晶の製作に成功

1993年 日亜化学工業による高輝度青色LED発売

1995年 緑色のLED発売

1996年 青色+蛍光体で白色LED発売

#### ・LEDの特徴

ハロゲン電球と比較して消費電力は約1/5となり、ランニングコスト及びCO<sub>2</sub>発生量の80パーセントの削減を実現できる地球環境に配慮したエコ商品である。スペクトル、演色性、色温度は従来光源と異なっており、注意が必要。負荷が小さいとちらつきが出る。又、大電力を投じると発熱が増えるため放熱対策が必要である。従来器具に引けを取らない明るさまで向上している。

**質疑** なし

## ②講義 2

### 舞台照明設備の運用と基本操作 2

(LED 照明器具の取り扱い方)

【講師】 前田 敬氏 (株式会社 Art's 代表取締役副社長)

LED 照明器具の基礎知識から機材の設置と制御、操作の基礎から応用までを、実際に機材を用いて解説を行った。

・LED照明器具の種類と用途について下記の器材について説明

ローホリタイプ・フラッドタイプ・スポットタイプ  
ソースフォー (7色タイプ・色温度の違う2タイプ)  
ダウンライト・凸レンズタイプ・フラッドタイプ  
スポットタイプムービングライト indigo 2000  
フラットタイプムービングライト indigo 6000  
フラットタイプ (固定型) Sygnus  
フラットタイプ (固定型) ColorBlast

・電源供給と信号について

直電源、電圧に留意する事。信号回線はDMX512、



「舞台照明設備の運用と基本操作 2」の実技の様子

Art-Netなどを使用。

・制御について

PCベース (DrMX)、PCベース + Wing (e;cue)、フルボードコンソール (Pearl Expert)、会館の調光卓での使用方法等の説明。

**質疑** 実技指導を実施中、参加者の質問に対し随時応答。

## ③講義 3

### 公立文化施設管理 (危機管理)

【講師】 草加叔也氏 (有限会社空間創造研究所 代表)

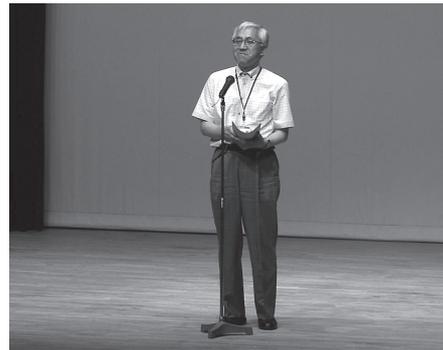
(社)全国公立文化施設協会発行の「公立文化施設の危機管理/リスク・マネジメントガイドブック」第Ⅱ部危機管理/リスク・マネジメントの基本及び第Ⅲ部危機管理/リスク・マネジメントの実践をテキストとし、下記の内容で事例を挙げ解説。

- ①建物・設備・備品等ハードウェアに関する危機管理
- ②事業・指定管理者等の経営に伴うソフトウェアに関する危機管理
- ③緊急時の避難誘導・個人情報守秘義務等ヒューマンウェアに関する危機管理
  - ・危機管理／リスク・マネジメント
  - ・危機管理／リスク・マネジメント方針
  - ・危機管理／リスク・マネジメントの実践者
  - ・危機管理／リスク・マネジメントのポイント
  - ・平時の対策
  - ・緊急時の対策
  - ・事後の対策

質疑 なし



草加叔也氏による「公立文化施設管理（危機管理）」の講義



閉講式の様子

## 事業を終えて

### 参加者数・参加施設数

参加者数 43名  
参加施設数 19施設

### 事業の評価・今後の課題

(参加者の感想、相当者の評価等より)

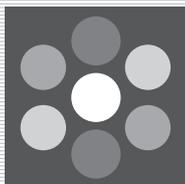
講義1では、LEDの構造・特性・開発史などを理解できた。今後、持ち込み機材としてLED光源機材が増加するのが予想されるので舞台管理業務上、必要な知識を得られた。現在の社会情勢、環境問題においてエネルギーのあり方を考えるとコスト面の問題等もあるが舞台照明のLED化を年次計画で検討したいとの感想

があった。

講義2では、最新機材がここまで進化した事に、大半の受講者は驚いていた。現物を見る機会が少ないので今回は実際に卓の操作もでき、大変参考になったと一定の評価を得られた。

講義3では、危機管理について概略は理解していたが地震、テロ、ハード、ソフト、ヒューマン等多岐にわたるものをどう守るか、どう対処するのかを再認識したとの評価を得た。

今後、初級・中級・上級などの技術講習を企画してほしいなどの要望があった。



# 東北ブロック技術職員研修会



## 開催要項

- ① **事業名** 平成 24 年度文化庁委託事業ブロック別技術職員研修会
- ② **趣 旨** 劇場・音楽堂等の舞台技術初任者及び管理・運営担当者を対象として、舞台技術・管理・運営に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に寄与する。
- ③ **主 催** 文化庁・社団法人全国公立文化施設協会
- ④ **主 管** 社団法人全国公立文化施設協会東北支部技術部会
- ⑤ **協 力** パナソニック ES エンジニアリング株式会社  
パナソニック株式会社 エコソリューションズ社
- ⑥ **開催期間** 平成 24 年 12 月 5 日(水)～12 月 6 日(木) 【2 日間】
- ⑦ **会 場** 秋田県民会館 大ホール
- ⑧ **参加対象** 劇場・音楽堂等に勤務する担当職員（指定管理者又は舞台業務受託者に属する者を含む）・文化行政主管課等の担当職員・その他民間関係者等
- ⑨ **研修内容** 【1 日目】  
講演Ⅰ「公立劇場・音楽堂の改修に於ける課題と考察」【講師】草加叔也氏  
講演Ⅱ「地域の核となる文化会館－震災体験からの提言」【講師】千田 敬氏  
パネルディスカッション「震災のその後」  
【コーディネーター】草加叔也氏  
【パネリスト】千田 敬氏  
草薙祐喜氏 事例発表ー 1 「本番直前に起きた震災対応」  
飯坂恵子氏 事例発表ー 2 「震災 2 日後に控えた本番対応」  
新田康久氏 事例発表ー 3 「地震後の建物損害」  
羽根川和雄氏 事例発表ー 4 「大規模空間の吊り天井問題とその改修」  
全体討論  
【2 日目】  
講義&実技「舞台照明での LED 活用のメリット及び演出効果」  
【講師】高島育生氏（パナソニック株式会社）  
北原昌樹氏（パナソニック株式会社）

研修計画・日程

	時間	内容	講師
12月5日 (水)	13:00～13:30	受付	
	13:30～13:40	開講式	
	13:40～14:30	講演Ⅰ 公立劇場・音楽堂の改修における課題と考察	草加叔也氏
	14:30～14:40	休憩	
	14:40～15:20	講演Ⅱ 地域の核となる文化会館——震災体験からの提言	北上市さくらホール 千田 敬氏
	15:20～15:30	休憩	
	15:30～17:40	パネルディスカッション 「震災のその後」 事例発表—1 本番直前に起きた震災対応 事例発表—2 震災2日後に控えた本番対応 事例発表—3 地震後の建物損害 事例発表—4 大規模空間の吊り天井問題とその改修	コーディネーター 草加叔也氏 中仙市民会館 草薙祐喜氏 能代市文化会館 飯坂恵子氏 仙北市民会館 新田康久氏 大曲市民会館 羽根川和雄氏
18:00～20:00	情報交換会		

	時間	内容	講師
12月6日 (木)	9:00～9:20	受付	
	9:20～10:10	舞台照明でのLED活用のメリット及び演出効果について (講座と実技—1)	パナソニック 北原昌樹氏
	10:10～10:20	休憩	
	10:20～12:00	舞台照明でのLED活用のメリット及び演出効果について (講座と実技—2)	パナソニック 高島育生氏
	12:00～12:05	休憩	
	12:05～12:20	閉講式	



会場の秋田県民会館





## はじめに

本研修会では、舞台技術経験者で施設管理もやっている開催県秋田の職員ら5名にパネリストを依頼し、事例発表及びパネルディスカッションを実施した。

また、全国的に省エネが求められている状況において、特に技術職員の関心が高いLEDに焦点をあて、実機を使用したデモと講座を開催した。

## 研修内容

1 日目 (平成 24 年 12 月 5 日)

### 講演 I

## 公立劇場・音楽堂等の改修に於ける課題と考察

【講師】 草加叔也氏 (有限会社空間創造研究所 代表)

多くの文化施設が抱える施設・設備の「経年劣化」について大所高所から問題点を提言。施設が存続するために対策を取る必要の重要性についてパワーポイントを用いた説明が行われた。また、施設のウィークポイントを把握し、管理者の強みとするために中長期維持管理計画を策定することの重要性、改修計画を進めるために把握すべき舞台設備などの更新周期、老朽化した施設を運営するためのポイントと改修・更新に予算を投入する必要性についても説明がなされた。

### 講演 II

## 地域の核となる文化会館

——震災体験からの提言

【講師】 千田 敬氏 (岩手県北上市文化交流センター 囑託)

北上さくらホールの被害状況と復旧風景のスライドを用いて説明が行われ、初動対応では利用者を避難させる際に職員の言動が注視されているが、建具などが揺れる音で職員の声が通らなかったということや、揺れが収まった際、利用者が荷物を取りに建物に戻り、帰宅者を把握することが困難であったという体験談が話された。

震災直後から復旧までの動きについても、体験談を交えた説明がなされた。その中で行政との連携につい



草加氏による「公立劇場・音楽堂等の改修に於ける課題と考察」の講演



千田氏による「地域の核となる文化会館」の講演

でも触れ、行政が予算確保しやすいように現場で被害図を作成したことや、現在は週に1～2回のペースで主管課と連絡を取る機会を設けていることなどが報告された。また、震災直後はホワイトボードを活用して職員間で情報共有を行ったという事例も紹介された。

現在は、避難誘導用の備品を利用者・職員双方から見えやすい位置に設置し、意識付けを行っているとの話であった。

### 事例発表

## 震災のその後

[コーディネーター] 草加叔也氏 (有限会社空間創造研究所 代表)

[パネリスト] 千田 敬氏 (岩手県北上市文化交流館さくらホール 嘱託)

草薙祐喜氏 (秋田県大仙市中仙市民会館 参事)

飯坂恵子氏 (秋田県能代市文化会館)

新田康久氏 (秋田県仙北市民会館 館長補佐)

羽根川和雄氏 (秋田県大仙市大曲市民会館 館長)

パネルディスカッションでは、初めにパネリスト4名(先に講演を行った千田氏を除く)が、それぞれ事例を発表した。

草薙氏と飯坂氏の事例は、震災当日に中仙市民会館でゲネプロを行っていた団体が震災2日後に能代市文化会館の主催事業として公演を行う予定であったということで、密接にリンクしている。

中仙市民会館は、停電のため地震後にゲネプロを再開できず、能代公演に向けて大道具などの搬出をする際もスプリンクラー用非常発電機から電源を取り、少ない照明で作業したという事例であった。

能代市文化会館では、震災翌日の保守業者による点検の結果、舞台に異常がなく、電気も復旧したことから施設所管の市から主催事業の開催許可がおり、公演実施を決定。余震発生時にはすぐ中止することなどを確認し実施したという事例であった。

仙北市民会館の事例は、震災から約8ヶ月後に天井から蛍光灯の蓋である石綿セメント板が落下し、女性客にぶつかったというものであった。事故当初は、女性客と会館関係者双方が打撲だと認識していたが、病院での診察の結果骨折であると判明した。

この事例では、現場に居合わせた館長が私用車で病院へ搬送したこと、催事を続行させたことが問題視された。

落下の原因は警察の調査でも不明であったが、会館では落下した部材と同じものを全て交換し、さらに落下防止網を設けるなど二重三重の安全策を講じた改修



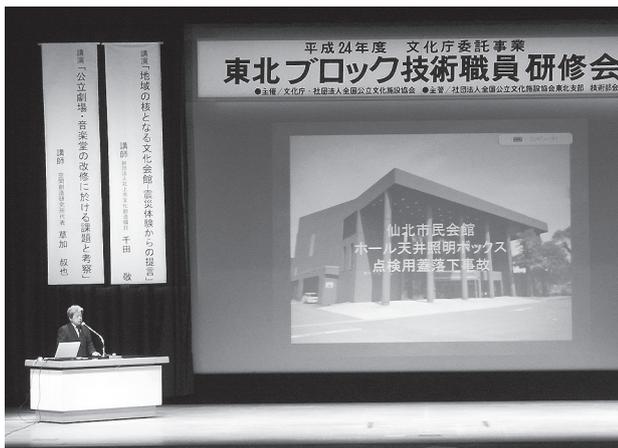
草薙氏による事例発表



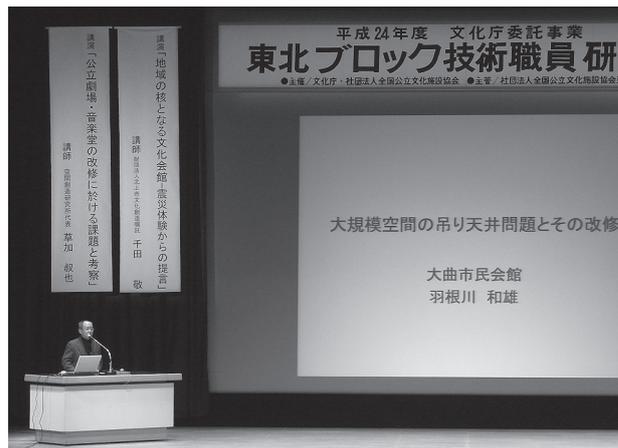
5名のパネリスト



飯坂氏による事例発表



新田氏による事例発表



羽根川氏による事例発表

を行い営業を再開している。

羽根川氏はホール吊り天井に関しては新耐震設計法のような法律のしびりがなく、震災などが発生する度に指針・通達が設定されるにとどまっていること、音響効果の観点から近年は吊り天井の構造物が厚くなる傾向にあり、落下時に人的被害が生じる可能性があるという点を指摘した。

### 全体討論

## 震災のその後

パネルディスカッションはコーディネーターに草加氏を迎え、事例発表に引き続きパネリストの5名を中心に、会場からの質疑応答も随時行うという流れで実施した。

この中では、震災後に公演を実施した能代市文化会館に対し、公演中止と比べ公演実施という決断が難しいことや、余震発生時に公演を中止するタイミングな



パネルディスカッションの様子

どについてコーディネーターから助言などがあつた。

また、非常時の指揮命令系統についてもディスカッション。現在の運用方法の紹介や、相談方式による対応限界の可能性についての提言、震度6という激しい揺れの体験談、さらには会場からの質問など、活発な討議・質疑が行われた。

## 2日目 (平成24年12月6日)

### 講座・実技

## 舞台照明でのLED活用のメリット及び演出効果

[講師] 高島育生氏(パナソニック株式会社エコソリューションズ社)  
北原昌樹氏(パナソニック株式会社エコソリューションズ社)

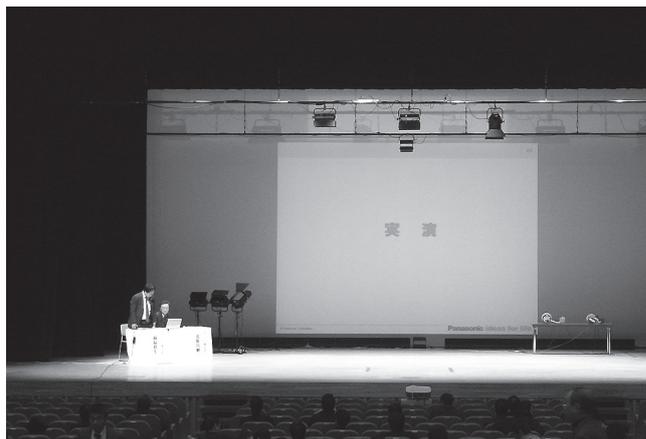
講演では、省エネルギー化の推進や、昨今の電力事情により、一層の節電が求められる公共施設において、

電力使用量の多いホールなどがLEDを導入することのメリットが紹介された。また、節電効果や、交換頻度の低減による作業効率の向上といったメリットについても説明。舞台照明に求められる光量を実現するため、素子を増量すると灯体重量が増加することや、素子ごとの光源のため影が複数生じる可能性などの課題についても解説があつた。

実演では、舞台上にフラッドライト(500Wタイプ・



パナソニック担当者による講演の様子



LED 実演の様子



1000W タイプ)、フレネルスポットライト、 Horizont ライト (アッパー・ローア)、天反ライト、客席ダウ n ライト (いずれも LED) を設置・点灯し参加者が

光量や発色、調光などを体感した。また、それぞれ対応する電球式の器具との比較、光の具合や変化、影のコントラストなどの対比も行った。

## 事業を終えて

### 参加者数・参加施設数

参加者数 74名 (講師11名含む)

参加施設数 41館

### 事業の評価・今後の課題

講演においては、新設される文化施設が減少していること、既存の施設が統廃合や老朽化により着実に数を減少させているという厳しい現状を認識した。

このような現状で、既存の施設が存続するための劣化対策や、中長期維持管理計画の策定は各参加施設共通の問題と推察される。

また、東日本大震災を経験し、地域の核としての文

化施設の役割とホールの存在意義、目的の維持・継続、利用者のための施設であり続けることの重要性を実体験から発表していただいたことで、施設管理者としての責任を再認識した参加者も多いと思われる。

実技ではメーカーの協力により、最新の LED 灯体を使用する機会を設けることができた。節電が要請される折、ホールや事務室部分などで LED の導入が進展している一方で、大きく電力を消費する舞台部分の LED 導入は光量などの問題があり、その普及は進んでいない。今後、舞台照明改修などの機会に LED を導入するホールが増加することが予想されるが、その際に本研修会の成果が参考になれば幸いである。



# 関東甲信越静ブロック 技術職員研修会



## 開催要項

- ① 事業名 平成 24 年度関東甲信越静ブロック技術研修会
- ② 趣 旨 劇場・音楽堂等の職員を対象として、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
- ③ 主催 文化庁 (社)全国公立文化施設協会
- ④ 開催期間 平成 24 年 11 月 27 日(火) ~ 11 月 28 日(水) 【2 日間】
- ⑤ 会場 コラニー文化ホール 小ホール  
所在地 〒 400-0033 山梨県甲府市寿町 26-1  
電話 055-228-9131
- ⑥ 日程及び内容 別紙のとおり
- ⑦ 受講者 劇場・音楽堂等の舞台業務担当職員（指定管理者又は舞台業務受託者に属する者を含む）・文化行政主管課等の担当職員・その他民間関係者等

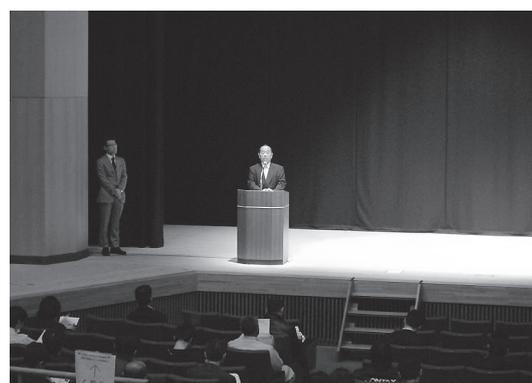


会場のコラニー文化ホール

研修計画・日程

時間	科目	内容	講師
12:50 ~ 13:20		受付	
13:20 ~ 13:30		開講式	
13:30 ~ 15:00	VII	1. 公立文化施設管理（危機管理）（90分）	小田原市民会館 館長 間瀬勝一氏
15:00 ~ 15:10		休憩	
15:10 ~ 17:00	IV	2. 舞台照明設備の運用と基本操作（110分）	(株)共立 小林光四郎氏
17:00 ~ 17:30		休憩	
17:30 ~ 19:00		情報交換会・交流会	

時間	科目	内容	講師
9:50 ~ 10:20		受付	
10:20 ~ 12:00	V	3. 舞台音響設備の運用と基本操作（100分）	(株)エー・ティー・エル 丹尾隆広氏
12:00 ~ 13:00		休憩	
13:00 ~ 13:30	※	4. 実演コンサート（30分） アーティスト：風カヲル時	(株)共立 小林光四郎氏 (株)エー・ティー・エル 丹尾隆広氏
13:30 ~ 13:40		休憩	
13:40 ~ 15:10	VIII	5. わが国の芸術文化概論（90分）	(財)滋賀県文化振興財団 副理事長 柴田英杞氏
15:10 ~ 15:25		閉講式	



開講式の様子



### はじめに

今年度の関東甲信越ブロック技術研修会の計画を進めていくにあたり、前回の評価アンケートの意見を参考に照明設備・音響設備の研修に関しては「実技講習」を視野に検討を重ねていった。また、当研修会は、経験年数の浅い者を主な対象としていることから座学による講習ではなく、実技講習の方がより研修効果が高いと考えた。さらに、昨年発生した東日本大震災の経験から各施設が危機管理マニュアルの見直しを行っている現状や、長年検討されていた「劇場、音楽堂等

の活性化に関する法律」がまとまりつつある状況から、これら2つの講義も欠かせないテーマとして計画を立てていった。

技術部会では、このような舞台技術向上の機会が少しでも多くの方に還元できるよう、公立文化施設の職員や文化行政主管課の職員はもとより、民間関係者・学生などにも積極的に開催告知し、多くの参加者を募ることが望ましいという意見が出た。

### 研修内容

#### 講義Ⅰ (座学形式)

#### 公立文化施設管理 (危機管理)

[講師] 間瀬勝一氏 (小田原市民会館 館長)

はじめに地域文化施設とは、「生きる絆を形成するための地域の文化拠点で、心豊かな生活を実現するための場」であると、故に危機管理の目的は、「観客、地域住民及び職員等の生命、健康を守り、文化施設の事業を通じて、安心して芸術文化に触れることが出来る環境を作っていくことである」と話した上で講義に入った。



間瀬勝一氏による「公立文化施設管理 (危機管理)」の講義

まず昨年3.11の東日本大震災の経験により、文化施設を取り巻く環境の変化について説明した。

たとえば、帰宅困難者の受け入れ・計画停電に対する対応・公演の中止、延期の判断など様々な予期しなかったことを学び、また緊急地震速報が一般化し、だれでも簡単に情報を受け取れる分、それによる問題も出ている。さらに文化ボランティアが各館で普及しているが、案内業務だけを考えるのではなく、むしろ緊急時の対応が大事であり、ボランティアといってもしっかりと訓練を行っていくべきであると説明した。

つづいて文化施設にはどのようなリスクが存在するのかをまとめた。

自然災害：地震・風水害・火山災害

事故：火災・停電・人身事故・設備破損・周辺施設の事故

テロ・騒動：大規模テロ・不審者侵入・爆破予告・異臭騒ぎ・放火・感染症・観客騒動

その他：情報漏えい・PCウイルスの侵入・不祥事・メディア対応・損害賠償など

文化施設にとってのリスクは、地震や火災だけではなく、その他多数存在する。一例では、不審者侵入においては、入場無料の催し物などどのような人が入ってくるか分からない。案内係の対応をしっかりと準備

しておくべきであるし、感染症においては、一般的にインフルエンザと考えるが、一般の風邪も感染症のひとつである。さらに最近では、PCを介しての爆破予告、いたずらなどのリスクも考えられるとした。

また、マニュアル作成にあたっては3.11の経験を生かして作ることをすすめ、マニュアルは定期的に再点検し、修正を重ね、施設の実態にあったものになるよう進化していかなければいけないと説明した。

訓練の実施方法については、「月刊商業界」に掲載された東京ディズニーランドの記事に触れながら解説した。有事の際は、末端のスタッフまで指示が伝わらないためスタッフ個々人の判断が重要と説明した上で、

- ① 平時から地震の際の初動は、短い言葉で徹底すること
  - ② 初動については、マニュアルで整えることがポイントである
- と紹介した。

東京ディズニーランドの訓練は、一番過酷な状況を設定した訓練であり、1回の訓練では身につかないため2回繰り返すことも紹介した。さらに講師の経験を踏まえ、訓練を行う際は参加者が楽しめることや台本なしの訓練を行うなど工夫が必要であると説明した。

事前に行った参加者からの「リスクマネジメントのアンケート結果に触れ、東北のアンケート結果との違いを説明した。

最後に危機管理を実践していく上で、「職員が日常を熟知することで異常に気づく。すべての職員の防災意識に支えられた、芸術文化に触れられる施設でありたい」と講義を閉めた。

### ■ 質疑応答

**質問** 先生の所属する小田原も津波の恐れがあると思うが、津波対策はどのようにしているか？

**回答** お客様をどのようにして安全な高い所に避難させるか、また何階以上が大丈夫なのかなどをシミュレーションし対策を考えている。

### 講義Ⅱ (実技形式)

## 舞台照明設備の運用と基本操作

〔講師〕 小林光四郎氏 (株)共立 ライティングデザイナー

経験年数の浅い者を対象とした講義内容で、舞台上で機器を使用しながら照明設備の運用と基本操作について講義を行った。講義の前半では、照明器具の使用方法や照明の一般知識について解説、後半は実演コンサートの照明を題材に解説を行った。

はじめに舞台照明の役割として、3つの照明を解説した。

- ① 「見るための照明」：出演者やスタッフが円滑に催し物を進行させるための照明
- ② 「見せるための照明」：観客が見たいものをきちんと「見せる」舞台照明の基本
- ③ 「観せるための照明」：②の「みせる」の文字の違いからもわかるように催し物の雰囲気をもより盛り上げるために、色をつけたり、点滅などの効果を駆使する照明。

照明の役割を受講生に理解させた上で、明かりは対象物に対する方向性と用途によって4つの基本に分けることができるとし、明かりの名称と目的について図解を用いながら、舞台上の器具で実演し解説した。

- ① 「地明かり」：舞台全体を照らすための明かり。主にボーダーライトやフレネルスポットライトを使用。
- ② 「ななめ (ブッチガイ)」：舞台上部の上下から舞台



小林光四郎氏による「舞台照明設備の運用と基本操作」の講義

全体を斜めから照らすための明かり。対象物の輪郭をよりはっきりさせる効果がある。アクティグエリアに奥行きがある場合は、複数のサスバトンを使用。

③「シーリング (CL)」: 舞台前方 (客席側) の上部から対象物の正面を照らす明かり。主に人物の表情を照らし出す効果がある。

④「フロントサイド (FR)」: 舞台前方両サイドの上部から対象物の側面を照らすための明かり。対象物の輪郭をはっきりさせ、舞台に奥行きを出す。

また、CLとFRをまとめて「前明かり」を呼ぶ。

つぎに舞台をより美しく見せる効果的な明かりについて図解を用い、実演しながら解説した。

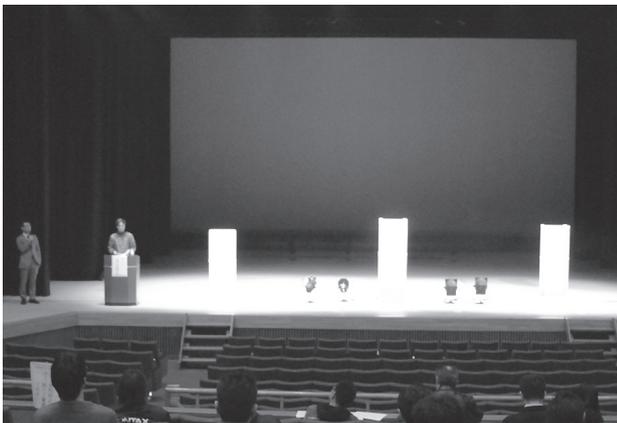
①「サス」: 舞台上の定点に絞って当てられる明かり。強調したいものに当てる。(ねらい・トップ・バックがある)

②「ステージサイドスポット (SS)」: 舞台の両サイド、対象物の真横から照らす明かり。舞台上の対象物をくっきり浮き上がらせる効果がある。

③「バックライト」: 舞台後方から舞台前方に向けて投射する明かり。対象物のシルエットをはっきりさせる効果がある。スモークをたいて光線 (ビーム) を見せたり、空間や奥行きを強調する効果がある。

④「水平ライト (UH/LH)」: 舞台後方、水平に色をつける明かり。照明で色を使う場合は、照明のベースとして組み立てる。時間や風景を表現できる。

講義の後半では、実演コンサートで使う照明器具を解説。使用方法なども実演した。



「舞台照明設備の運用と基本操作」の実技の様子

水平ライト (UH/LH) / 平凸レンズスポットライト (Pc) / フレネルレンズスポットライト (Fres) / エリプソイダルスポットライト (SF) / パーライト (5N/5M) / ディスクマシン (EQS + EDM)

最後に実演コンサートの曲目 (5曲) の照明プランについて解説した。講師は、曲を聴き込んだ後、曲のイメージを構成し、照明プランを作成すると解説。実際の照明のシーンを投射し、講師のイメージと照明の確認を行った。

## ■ 質疑応答

**質問** 照明技術者として全国の施設を回る中で、施設の舞台管理について困ったこと、良かったことは何ですか？

**回答** 困ったことの一例では、管理が行き届いていない施設は困る。電球の予備がないこと、フライダクトに埃がたまっている施設がある。ひどい例は、電源を入れるとショートして照明回路が使用できなかった施設もあった。良い例では、管理技術者が設備をよく知っていて、利用者に説明ができるととても助かる。

## 講義Ⅲ (実技形式)

### 舞台音響設備の運用と基本操作

〔講師〕 丹尾隆広氏 ((株) エー・ティー・エル)

音響設備を考える基本として、「スピーカーのプランニング」について図解を示しながら講義を行った。

はじめに「音の特性」について話をした。

「音」とは、非常にやっかいなものである。可聴範囲 (20Hz ~ 20kHz) の音に限定して考えてみても、音の波長は 17m ~ 0.017m となり、周波数によって音は異なった特性を持っている。また音の速さ (音速) も温度や湿度によって変化する。このような特性を持った「音」をコントロールしなければいけない。また、音の指向性も周波数によって異なっている。(低周波: 全体的に伝わる、高周波: 一方向的に伝わる、跳ね返る)

さらに「音の足し算」についても解説した。

二つの音源の位相差  $0^\circ$  (位相差がない時) では、最大値の + 6dB となる。位相差  $120^\circ$  (1/3 波長のずれ) では  $\pm 0$ dB、位相差  $180^\circ$  (1/2 波長のずれ) では、 $-\infty$  (消えてしまう)。スピーカーを組み合わせる時には、こ

のことを注意して行わなければいけないと説明した。

つぎに、「スピーカーの種類と特性」について解説した。

スピーカーは、大きく2種類に分けることができる。

- ①「ポイントソース（点音源）」：音が全体的に広がる分、距離が長くなると音圧は下がる。
- ②「ラインソース（線音源）」：音の広がりが抑えられ、距離が長くなっても音圧の下がり具合が低い。

これらの技術により現在の音響設備では、より高い音圧、より正確な動作、より高いコントロール性を可能にしていることを説明した。また参考としてポイントソースの音圧の計算方法を紹介した。

さらに「指向性（カバーエリア）」について説明した。

スピーカーのカバーエリアについて誤解をしている音響技術者が多くいるとしながら、音の特性からわかるように、カバーエリア内でも音源からの距離によって音圧が下がっていることや各周波数によって音の特性が異なること、これらを意識してスピーカーのプランニングを行わなければいけないとした。

つづけて「スピーカーの組み合わせ」について解説した。

複数のスピーカーを使用する目的は、

- ①音圧を上げる
- ②カバーエリアを広げる
- ③サービスエリアに対し、カバーエリアをフィットさせること

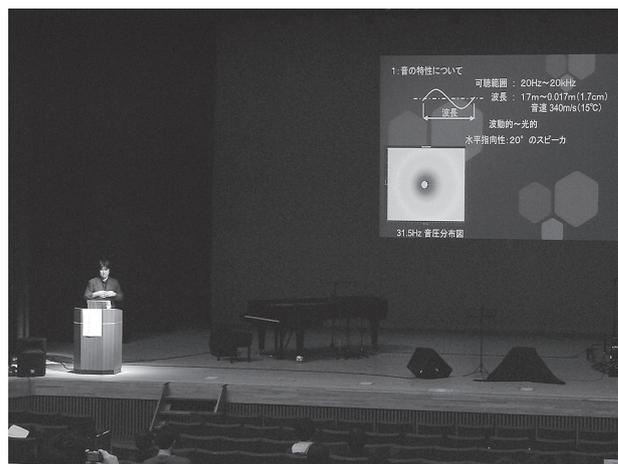
とし、したがって複数のスピーカーを使用することにより、サービスエリアに対し均一な音圧・音質を提供でき、音圧の大小にかかわらず高音質、音像定位を保つことができるようになると説明した。また、最小限のスピーカー数でプランすることが良い音を作る上で大事であるとも説明した。

また、ポイントソースの音圧を上げるために2つの方法を紹介した。

- ①「タイトパック設置」：全体に音が届く利点がある。
  - ②「ハイ合わせ設置」：ひずみ感が少ない利点がある。
- 講義の後半では、プランニング方法を紹介。

2階席まであるホールの断面図を参考にスピーカーのプランニング例を解説した。

また最後に、「音響調整」について解説、まず音響調整機の読み方を説明した後、音響調整の一例「クロ



丹尾隆広氏による「舞台音響設備の運用と基本操作」の講義

スポイントの調整方法」を紹介した。

スピーカーは、できるだけ再生帯域を広げ、大きな音を出せるようにするために、広域ユニットと低域ユニットを組み合わせている。そのため広域と低域のクロスポイントで理想的な状態にならない。理想的な状態になるようクロスポイントを調整する必要があると説明した。

### ■ 質疑応答

**質問** どんなスピーカーでもラインソース（縦づみ）すれば音は飛ぶのか？

**回答** します。ただし、全体域ではない。周波数によって縦づみの手法が異なる。高い帯域まで音を飛ばしたいときは、広域の音は密接に配置する。また、スピーカーの縦の指向性が狭いスピーカーでないとうまくカップリングしない。

### 講義Ⅱ&Ⅲ（実演）

#### 実演コンサート

【講師】 照明：小林光四郎氏 音響：丹尾隆広氏

【演奏】 風カヲル時（和風ジャズユニット）

講義Ⅱ及び講義Ⅲの研修を踏まえ、コンサートでは照明・音響機器がどのように運用されているかを実演を通して学んだ。

M1：Phantom / M2：花鳥風月 / M3：春待ち風 /  
M4：碧の龍 / M5：タソガレ・ユニオン 全5曲



風カラル時の実演コンサートの様子

#### 講義Ⅳ (座学形式)

### わが国の芸術文化概論

【講師】柴田英祀氏

(財)滋賀県文化振興財団 副理事長兼芸術監督

この度「劇場、音楽堂等の事業の活性化のための取組に関する指針(案)」が発表されたことを受け、ここに至るまでの法律の経緯や文化施設の活動の基準、この度発表された指針(案)について説明・解説を行った。

はじめに「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」のこれまでの経緯について説明した後、劇場、音楽堂等の活動基準についてイメージ図を示しながら説明した。

文化施設の役割を、大きく4つに分け解説。

- ①文化芸術への場の提供(貸館事業)
- ②鑑賞機会の提供
- ③文化芸術の普及・育成
- ④優れた公演芸術の創造・育成

とした上で、現在の文化施設の実態を明らかにするためにこれら4つの役割から作った活動基準のモデルを提示した。

- ①総合型交流モデル：貸館中心の劇場、音楽堂等
- ②総合型文化芸術振興モデル：貸館及び鑑賞事業を中心とした劇場、音楽堂等
- ③重点型地域密着モデル：作品創造を中心とした劇場、音楽堂等
- ④重点型専門モデル：専属集団を抱えての作品創造を中心とした劇場、音楽堂等

①、②の総合型モデルが全体の約80%を占める、③

が18%、④は2%であると紹介した。

近年の傾向としては、総合型から重点型地域密着モデルへと微増している。自分たちの施設がどのモデルに属しているか検証してほしいと説明した。

法文・指針案について説明した。

法文内の「劇場、音楽等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、また、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である」を読み上げ、文化施設は地域コミュニティの創造と再生を通じて、地域の発展や国際社会の発展に寄与することを期待されていると解説した。また、これからの文化施設は、実演芸術に関する活動や劇場、音楽堂等の事業を行うための人材の養成等を強化し、地方の劇場においては、実演芸術に触れる機会が相対的に少ない現状を改善するため地域格差の是正についても記載されていると解説した。

さらに法文の詳細について解説した。

#### 1. 運営方針の明確化に関する事項

この度の法文では、設置者についての記述があり、法文の特徴である。

「設置者は、運営方針を長期的視点に立って明確化し、地方公共団体が定めた文化芸術振興のための条例・計画等に則しつつ、同方針を定める必要がある」

#### 2. 質の高い事業の実施に関する事項

創造性及び企画性の高い事業、特色のある事業、利用者等のニーズ等に対応した事業の実施に努めるよう記載されているとした上で、各劇場の運営実態を勘案しつつ、3つの留意事項を説明した。

- ①重点型専門モデルの劇場：創造性及び企画性がより高く、かつ特色のある実演芸術の公演を実施し、その成果を広く国内外に発信すること。
  - ②重点型地域密着モデルの劇場：劇場の実態や利用者等のニーズを勘案しつつ、創造性及び企画性を要する実演芸術を試行する姿勢が求められること。
  - ③総合型交流モデルの劇場：実演芸術の公演を行う際は、施設の設置目的及び運営方針を踏まえるとともに、利用者等のニーズを十分に勘案すること。
- と解説した。

また、この項でも設置者について触れていることが特徴であると解説した。

「設置者は、適切な評価基準を設定し、実演芸術の水準の向上や地域活性化への貢献度など長期的な視点も踏まえた評価を適切に実施するよう努めるものとする」

### 3. 専門的人材の養成・確保及び職員の資質の向上に関わる事項

この度の法文では、人材育成についての記述もあり特徴であると説明した。

「設置者又は運営者は、劇場の専門的能力を有する人材の養成を行うよう努めるものとする。また、実践的な知識及び技術を習得するための研修や人材交流を行うよう努めるものとする」

さらに具体的に3つの留意事項を説明した。

- ① 専門的な人材が配置されている施設にあっては、自らの専門的知見を広く他の劇場、音楽堂等及び実演芸術団体等に提供すること。
- ②① 以外の劇場で、専門的な人材が配置されている劇場と継続的な連携・協力を構築し、助言を得られる体制を確保すること。
- ③ 劇場、音楽堂等と大学等の連携・協力に当たっては、実践的な知識及び技術の効果的な習得を重視し、専門的な業務を体験するインターンシップの実施を検討するとともに、将来的には連携大学院制度等の活用も検討すること。

と大学等との連携についても解説した。

### 4. 普及啓発の実施に関する事項

鑑賞機会の提供にとどまるだけでなく、利用者が参加する取組を行い、工夫すること。また教育機関、福祉施設、医療機関等の関係機関と連携・協力し、様々な取り組みを進めることを解説した。

### 5. 関係機関との連携・協力に関する事項

他の劇場、音楽堂等、実演芸術団体等、教育機関と



柴田英紀氏による「わが国の芸術文化概論」の講義

の連携・協力を積極的に進めるよう記載されていると解説した。

### 6. 経営の安定化に関する事項

経営の安定化のために貸館収入の確保や公的助成事業もしくは、民間助成事業による助成金を活用して運営財源の確保が記載されていると解説した。

### 7. 安全管理等に関する事項

施設の設置者と運営者のそれぞれの責任を明確にし、適切な分担を図るよう努めることとしていると解説した。

### 8. 指定管理者制度の運用に関する事項

また指定管理者制度に関しても解説した。

設置者は、同制度の趣旨を最大限に生かし得る方策を検討するよう努めることとし、専門的な知識及び技術を有する指定管理者を選定すること。そのための選考基準・選考方法を工夫すること。適切な指定管理期間を定めるよう記載されていることと解説した。

質疑) なし

## 事業を終えて

#### 参加者数・参加施設数

参加者数 84名

参加施設数 50館・4団体・学生4名

#### 事業の評価・今後の課題

今回の研修会は、前回の評価アンケートの結果を踏

まえ、照明設備・音響設備の研修については、実技による研修を計画し、危機管理については地震対策を中心に計画を進めていった。

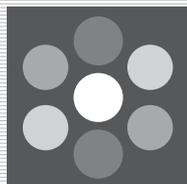
プログラム1(危機管理)では、アンケートから読みとれるように良い評価を得ることができた。

プログラム2(照明設備)の実技研修では、高い評

価を頂いた一方、プログラム3（音響設備）では、受講生と講義内容のレベルギャップがあり、難しすぎるとの声もあがった。当初、受講生を舞台上に上げての実技研修を検討していたが、舞台上に受講生を上げての実技研修では、受講生全員が見聞きできないのではないかと考え、舞台上に上げての研修は行わないこととした。結果、舞台上での研修を希望する声がアンケー

トに複数あがってしまった。今後は、実技研修の要望の高さに対してどのように対応するか。また研修内容のレベルをどこにおくかが課題と思う。実演コンサートは、実際の運用が間近で観られるという点で高評価であった。

プログラム4（文化概論）では、講義のボリュームに対して時間があまりにも少なすぎたと感じた。



# 東海北陸ブロック 技術職員研修会

## 開催要項

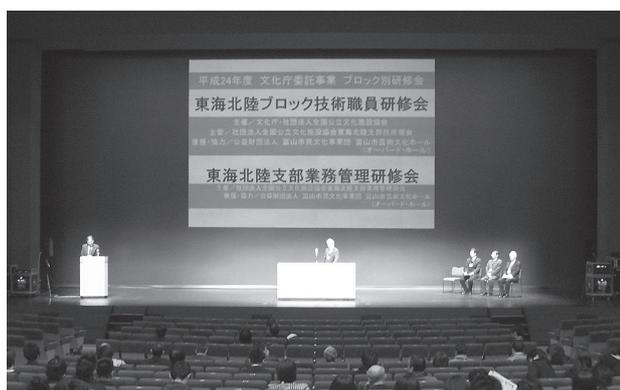
- ① **事業名** 平成 24 年度 東海北陸ブロック技術職員研修会
- ② **趣 旨** 東海北陸ブロック公立文化施設技術職員的能力向上を図り、施設の円滑な運営に必要な初級研修（舞台・音響）を行い、もって公立文化施設及び地域の芸術文化の活性化を図る。
- ③ **主 催** 文化庁・社団法人全国公立文化施設協会
- ④ **主 管** 社団法人全国公立文化施設協会東海北陸支部技術部会
- ⑤ **公演・協力** 公益財団法人富山市民文化事業団 富山市芸術文化ホール  
一般社団法人日本音響家協会
- ⑥ **開催期間** 平成 25 年 1 月 17 日(木)～1 月 18 日(金) 【2 日間】
- ⑦ **会 場** 富山市芸術文化ホール（オーバード・ホール）  
〒 930-0858 富山県富山市牛島町 9-28  
電話 (076)445-5620 FAX (076)445-5621
- ⑧ **受 講 者** (1) 社団法人全国公立文化施設協会加盟施設の職員  
(2) 東海北陸地区の公立文化施設で舞台技術（舞台・音響・照明）担当（指定管理者又は舞台業務受託者を含む）の経験年数が浅い職員  
(3) 公立文化施設の事務職員で希望する方  
(4) 地域文化活動を行っている方



## 研修計画・日程

	時間	内容	会場
1月17日 (木)	12:00～	受付	
	13:00～13:15	開講式・オリエンテーション [支部長挨拶] (社)全国公立文化施設協会東海北陸支部長 愛知芸術文化センター長 北川昌宏氏 [会場館挨拶] 富山市芸術文化ホール 館長 菊川順良氏 [技術部会座長館] 日本特殊陶業市民会館 館長 江崎伸治氏 [司会進行] 愛知芸術文化センター 総括専門員 林 丘夫氏	オーバード・ホール
	13:15～17:00	研修会 (255分) 「舞台の安全に関する基礎講座」 1. 舞台上の安全について (Ⅲ) 2. 舞台吊機構のシステムについて (I—②) 3. 高機能劇場の安全対策 (Ⅵ) 4. スチールデッキの組み方 (Ⅲ) [講師] 毎熊文崇氏 (富山市民文化事業団 舞台技術課長)	オーバード・ホール
	17:00～18:00	会場見学会	オーバード・ホール
	18:00～	情報交換会	施設内「Q'z cafe」

	時間	内容	会場
1月18日 (金)	9:30～	受付	
	10:00～15:45	研修会 (300分) (12:00～12:45 昼食) 「舞台音響基礎講座」 1. 舞台 (舞台・照明) 設備の運用と基本操作 (Ⅲ・Ⅳ) 2. 舞台音響設備の運用と基本操作 (Ⅴ) [講師] 八板賢二郎氏 (一般社団法人日本音響家協会 会長) 山本広志氏 (一般社団法人日本音響家協会 北陸支部長) 高野 仁氏 (一般社団法人日本音響家協会 本部事業委員)	
	15:45～	閉講式 [閉会挨拶] 日本特殊陶業市民会館 館長 江崎伸治氏	



開講式の様子



## はじめに

劇場や音楽堂は不特定多数の人々が集まり催物の運営準備が行われるが、全ての人々に喜びと安全をもたらせなければならない。準備作業での安全や、公演の

進行が心地よく観客へ伝わるよう技術を習得するべく、東海北陸ブロックの公立文化施設技術職員の能力向上を図るべき本研修会を実施した。

## 研修内容

第1日目（平成25年1月17日）

### 研修会

## 舞台の安全に関する基礎講座

（舞台の安全管理）

【講師】 毎熊文崇氏（富山市民文化事業団 舞台技術課長）

### 1. 舞台上の安全について

#### ・本題に入る前に

2001年の歌舞伎町のビル火災により、火災予防条例で定めのある禁止行為解除の審査基準が、消防法の改正で違反是正の罰則が強化された。解除申請は利用する主催者が申請をするのではなく、劇場を管理する責任者が消防署に対し申請するもので、違反したものには厳重な処罰が与えられる。消防法は建物にかんする規制である。事故の責任は、公演の主催者ではなく、建物を管理している団体にあることを心得ておくこと。

#### ・自分自身がけがをしないために

経験の浅い職員は自分の仕事に意識が集中し、周り

が見えていない。自分がけがをすれば周りに迷惑をかける。そのためけがをしないようにするには、先輩の行動を見て「学ぶ」ことが大切である。視野を広く持ち、第一に安全、第二に正確、第三に迅速に作業を行う事を心掛ける。

### 2. 舞台吊機構のシステムについて

富山市芸術文化ホールの舞台吊機構のシステムを基準に説明が行われた。

#### ・吊物装置

単式カウンターウェイト吊物装置（手動・電動）

単式カウンターウェイト動索式吊物装置（電動）

複式カウンターウェイト吊物装置（手動・電動）

複式カウンターウェイト吊物装置

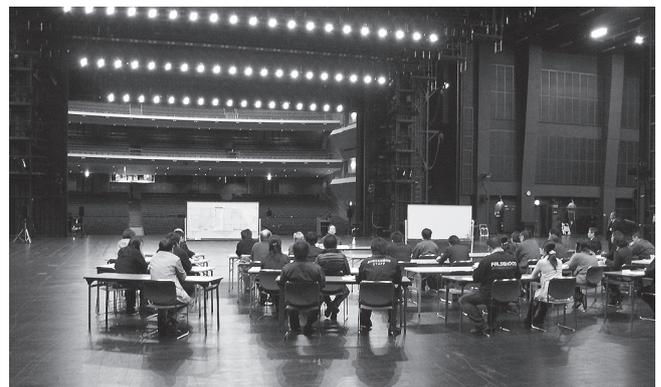
巻取り巻戻し式（電動）（当ホール）

直接巻取りドラム方式3種（電動）

どの方法が良いということはないので、それぞれホールに合った方法を理解することが重要である。



毎熊文崇氏による「舞台の安全に関する基礎講座」の舞台研修の様子



・滑車のプーリ（溝）

通常のプーリ……ロープが動くことによってプーリが動く。

Vプーリ……プーリが動くことによってロープを動かす。

・ワイヤー

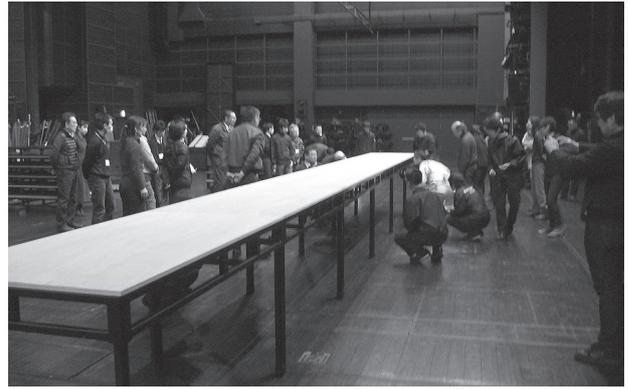
強度の十倍のものを使用。

必ず、ワイヤークリップ等を使用すること。鉄管結びなどはキンクができ、破断加重は半分以下になってしまう。

### 3. 高性能劇場の安全対策

作業中は、舞台・音響・照明の各セクションがどんな作業をしているか、お互い声をかけあい分かるようにしておく。

ブリッジやバトン等、吊物の昇降でインカムを使用して指示しているところがあるが、それでは周りの人々に動作が気づかれない。吊物が昇降していることを辺りに知らせる為には、大きな生声で操作指示すべきである。服装についてはバトンなどに引っかからないように、履物は安全靴が一番良いが、スニーカーなどでも良く、雪駄などは大変危険である。高所に上るときは、ポケットの中身はすべて出し、安全帯を着用する。貸し館利用者にはアマチュアの人も多い。



スチールデッキの組み方の研修

二重三重の安全対策が必要である。

### 4. スチールデッキの組み方

スチールデッキは世田谷パブリックシアターの設立と同時に、イギリスから日本に輸入された。海外では普及している。耐久性に優れている。平台（スギ材）の耐久加重が200kgに対し、スチールデッキは500kgである為、平台では強度がもたない場合などはスチールデッキを使用すると安全である。しかし、組み立てに時間がかかり、重量も平台は1人で運べるが、2人以上必要になる。

研修参加者により実際にスチールデッキを組み立てた。

## 第2日目（平成25年1月18日）

### 研修会

## 舞台音響基礎講座

（舞台音響の仕事）

【講師】八板賢二郎氏（一般社団法人日本音響家協会 会長）

山本広志氏（一般社団法人日本音響家協会 北陸支部長）

高野 仁氏（一般社団法人日本音響家協会 本部事業委員）

### 1. 舞台（舞台・照明）設備の運用と基本操作

音響の仕事は、生音を基準に生の音らしく、不足している音量を補強して、音質を修正し、観客全体に均等の音を聞こえるようにする。笙がメインであれば笙に合わせ、優先順位を考慮することが大切である。そして音響家の存在を観客に意識させない努力をする。

### 2. 舞台音響設備の運用と基本操作

まず、有線マイク及びスピーカーをスタンドに取り

付けコードをつなぐ作業を行った。また、ステージサイドでは照明のスポットとスピーカーが近い場合は、互いのケーブルを平行にしない、持込楽器と音響電源



八板賢二郎氏による音響研修の様子



山本広志氏による音響研修の様子



実習の様子

は同じ回路から取らないなど、ノイズ発生の原因について話された。

舞台監督・照明操作・音響操作に分かれ演習を行った。舞台は緞帳・カゲアナ・舞台監督・出演者の話、照明は舞台照明変化・客席電灯、音響はMC・BGM、

で担当に分かれ、カゲアナ→客入れBGM・客電ダウン→BGM FI・緞帳UP→出演者入り・照明変化・BGM FD→MC 終わり・BGM FU→緞帳DOWN・客電UP、という進行でそれぞれ交代し操作を行った。

## 事業を終えて

### 参加者数・参加施設数

参加者数 40名

参加施設 30施設

### 事業の評価・今後の課題

当初、参加者数が少なく、追加受講者の募集を行った。富山県、石川県、福井県の加盟館へ再度依頼を行い合計で40名の参加者となった。また、東海北陸支部の業務管理研修会も本年度より同日の開催としたため、技術研修会と業務管理研修会への参加者が分散してしまうように思えたので、次回からは各部会で調整と広報方法を検討する必要がある。

技術職員研修は2日間であるので業務管理研修会参加後の出席も可能として多くの方が参加できるようにした。東海北陸支部は東海北陸公立文化施設協会の流

れから10月にも研修会(研究会)を実施して、1月にも実施するので、今後は、支部内で研修会の内容・状況を検討していく必要があると思われる。

昨年度の研修では、座学を中心に行ったところ、アンケートで実技も行ってほしいとの意見が多数寄せられたので、本年度は、実技をメインとして研修会を実施した。実施後のアンケートも多数の受講者が満足であるとの回答を得ることができた。講師や施設の状況により内容を検討していく必要はあるが、なるべく実技が組み込めるようにプログラムと時間を調整していく必要がある。

劇場・音楽堂等の舞台業務は委託業務が多くなっているが、劇場職員が最低限の舞台・照明・音響の知識を持つことは、管理運営を行う上で重要であることを再認識した。



# 近畿ブロック技術職員・アートマネジメント (自主文化事業) 合同研修会



## 開催要項

- 
- ① **事業名** 平成 24 年度近畿ブロック技術職員&アートマネジメント [自主文化事業] 合同研修会
- 
- ② **趣旨** 「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」が成立しました。前文には、『……劇場、音楽堂等は、文化芸術を継承し、創造し、及び発信する場であり、人々が集い、人々に感動と希望をもたらし、人々の創造性を育み、人々が共に生きる絆を形成するための地域の文化拠点である……』と謳われております。
- 今回、技術職員とアートマネジメント [自主文化事業] 研修会との合同研修により、劇場・音楽堂等の舞台技術職員とアートマネジメント職員とのコラボレーションから、創造事業のプラン・実演までの専門的な研修を行うことにより、地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。
- 
- ③ **主催** 文化庁 社団法人全国公立文化施設協会
- 
- ④ **開催期間** 平成 24 年 12 月 3 日(月)～12 月 4 日(火) 【2 日間】
- 
- ⑤ **会場** 貝塚市民文化会館 コスモシアター  
〒597-0072 貝塚市島中 1 丁目 18-1  
TEL 072-436-5031
- 
- ⑥ **日程及び内容** 別紙のとおり
- 
- ⑦ **受講者** 劇場・音楽堂等の職員及び技術担当職員 (指定管理者又は舞台業務受託者に属する者を含む)、文化行政主管等の文化担当職員、その他民間関係者、大学・専門学校生等
-





## はじめに

この度近畿ブロックでは、技術部会と自主文化事業部会が合同で、初の試みとなる技術職員・アートマネジメント〔自主文化事業〕合同研修会を開催し、劇場・音楽堂等の舞台技術職員とアートマネジメント職員とが一緒になって研修を行うことにより、専門分野の範

疇にとどまらず、新たな業務の可能性について考える機会を提供し、劇場等が自ら創造する事業のプラン・実演までを実際に体験し、専門的な研修を行うことにより、地域の文化拠点となる、創造的な劇場・音楽堂等の職員を育成することを目的とした。

## 研修内容

### ① 基調講演

**作詞家 松井五郎が今伝えなくてはいけない想いを12組のアーティストとともに綴ったチャリティーアルバム『風のよせがき』と、そのアルバムをステージ作品としてライブ制作にした共同舞台制作事業を語る**

【講師】 松井五郎氏（作詞家）

【コーディネーター】 山形裕久氏（自主文化事業部会長）

講師として数々のアーティストに作詞提供を行い、約2500曲以上もの作品を発表している作詞家の松井五郎氏に、自身の創作活動について、また、プロデュースを含めたライブとコスモシアターとの共同制作事業についてお話を聞くという、またとない機会であり、講演という形ながら、研修生からの質問に直に答えて頂くという時間を多く取った。技術職員、自主文化事業の担当者ともにジャンルは違っても、一つの作品を創り上げる、創造する、という面において一環するも

のがあり、第一線で活躍されている松井氏ならではの、新しい事業のアイデア、企画の斬新な切り口についてお話し頂き、芸術文化だけではなく、何か別の分野にも目を向けてみることにより、コミュニティが広がっていくのではないかと。また、今後の会館づくりとして、会館ごとのわかりやすいカラー、イメージづくりが必要なのではないかという意見を頂いた。

### ② プログラム1【自主文化事業部会】

シンポジウム

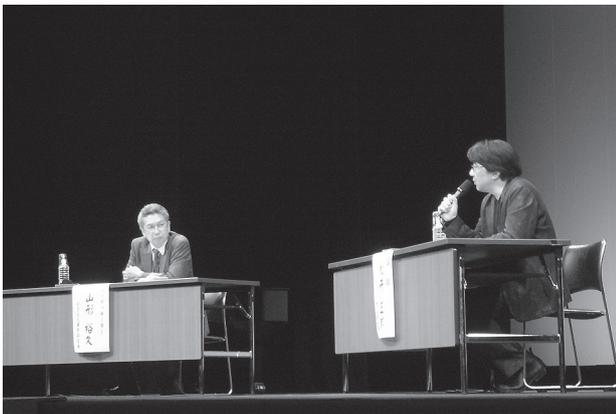
**創造事業 『風のよせがき』アルバムに参加と公演を語る**

【スピーカー】 野沢香苗氏（二胡奏者）

渡辺寿雄氏（ユーキャンエンタテインメント事業部）

山形裕久氏（企画・演出家／自主文化事業部会長）

冒頭、自主文化事業部会長から2人のパネラーの紹



基調講演の様子



シンポジウムの様子

介があった。

そして、実際ほとんどの公演の多くは東京でツアーパッケージされたものなので、現地会館スタッフはバックアップや管理のみになりがちだが、会館職員も一緒にクリエイティブな世界に入るべきだと考え、アカペラグループのチキンガーリックステーキをメジャーデビューさせ公演などを企画制作している中での渡辺氏と出会い。また渡辺氏がレコーディングディレクターを担当する野沢氏の公演に演出・舞台監督として参加するなど、今回のテーマである「風のよせがき」に繋がっていく経緯が語られた。

また、山形氏は会館職員にとって、アーティストの生のメッセージを受け取ることは非常に難しい。しかし、直接アーティストとやりとりをすることが重要で、自分たちとアーティストの間をどんどん省いて「こんな催しがしたい」と訴えかけることが必要である。そのようなことから各会館の独自のカラーが生まれるのではないかと述べた。その一つとして、コスモシアターの「釈場復活プログラム」を例に、自主事業の担当者は、事業企画を立案するだけでなく、会館からどんどん外に出て、アーティストや演者と出来れば直接話をし、外部の人材に様々な情報協力をしていただき、夢を現実にすること、それが独自のカラーになるということを語った。

次に、新しい事業を展開するにはどうしたらよいか、ということで渡辺氏から「風のよせがき」という企画が生まれた経緯について、そして発案者であり作詞家の松井五郎さんの想いや、CDの製作だけではなくライブをしようという経緯が述べられ、実際に3月11日にコスモシアターで行ったライブ映像などを交えながら、実際に出演者として参加した野沢氏より、ライブの感想や企画に対する想いなどが述べられた。

この「風のよせがき」ライブでは、技術面も全てコスモシアターのスタッフが担当し、アーティストである「作り手」の熱い想いをそのまま受け止め、共に創造していく事業であった。山形氏は自主事業企画を担当する者にも、創る楽しさや苦しみ、そして生む苦しみを味わってほしいと話をしながら演者の立場、お客様の立場、市民参加などの参加者の立場、制作側がそれぞれの立場に立って、企画立案し、実現する術をそれぞれの立場であるパネラーの実体験からも学ぶこ

とのできるシンポジウムであった。

### ③プログラム2【技術部会・実技】

## 『風のよせがき』演奏プラン・仕込み図・舞台仕込み (舞台・音響・照明)

【講師】長曾 誠氏 (貝塚市民文化会館 制作室主幹・舞台監督)

児島章一氏 (貝塚市民文化会館・舞台チーフ)

小野勝司氏 (貝塚市民文化会館・音響チーフ)

藤尾佳代氏 (貝塚市民文化会館・照明チーフ)

技術に日々係わる職員を中心に、自分達で舞台、音響、照明プランを作成し公演を行うまでの一連の段取り、注意点を交えながら翌日のデモ公演に向けての仕込みを実践的に触れて頂いた。舞台仕込み図面の必要性・仕込みの手順、照明仕込みに係る注意点、音響仕込み～SPチューニングとサウンドチェックの準備と注意点を各セクションのプランニングならびにオペレーターの考えを含めながら、本番(プログラム7)の準備を行った。

### ④プログラム3【技術部会・実技】

## 『風のよせがき』より二胡演奏 (野沢香苗) サウンドチェック

【演奏】野沢香苗氏 (二胡奏者)

【講師】渡辺寿雄氏 (ユーキャンエンタテインメント事業部)

山形裕久氏 (演出家・舞台監督/自主文化事業部会長)

二胡奏者 野沢香苗の公演をモデルに通常の公演手順で山形氏の舞台進行でサウンドチェックを行い、客席で聞こえる音と、舞台上で聞くアーティストの音の聞こえ方の違いなどを体感して頂いた。また、ボックス



サウンドチェックの様子

テージツアーとして事業・事務担当のアートマネジメント職員の研修生にも実際舞台上がって体感して頂いた。

#### ⑤プログラム4 講義【選択】

### 劇場・音楽堂概論『日本における文化芸術の状況と文化施策』

【講師】草加叔也氏（空間創造研究所 代表）

#### 1. 日本における実演芸術の状況と課題

- ・多様で重層的な日本の芸能
- ・アマチュアによる公演が盛ん
- ・多様な公演の主催者
- ・大都市に集中している公演

#### 2. 国と地方公共団体の文化政策と公立文化会館

- ・国の文化行政の推移  
第一期……芸術文化の社会的な必要性に基づき施策が開発されていく時期  
第二期……文化行政の具体的な施策が充実し、それに伴い執行体制が社会教育行政から独立し、一元的な体制が整備され始める時期  
第三期……文化芸術だけでなく、社会の他の分野との連携をも含めた総合的な視点での施策が模索される時期  
第四期……地方公共団体の文化行政の進展などを受けて、文化芸術立国の観点から国の責務として文化芸術の振興を図っていくための法的根拠が整備され、新たな段階に入る時期
- ・地方公共団体の文化行政の特徴  
社会教育法の体系の中に位置づけられ、国と地方公



草加叔也氏による講義の様子

共団体の文化行政は文部省と教育委員会で実施

#### 3. 実演芸術と文化行政

演劇、音楽、舞踊、演芸、伝統芸能など実演芸術の特徴は、複数の人間の集団として演じられ、多数の人間が集まり鑑賞すること、人と人をつなぐ絆、社会の共同性を包み込んでいることで、鑑賞に参加した人だけでなく、コミュニケーションにより社会に広がっていくことである。

2001年文化芸術振興基本法の制定により、国と地方公共団体がともに恒久的、具体的な施策として文化芸術の振興に取り組み、その役割分担を明確にする時期が到来した。

#### 4. 地方公共団体が設置した公立文化会館

##### 1) 公立文化会館とは

- ・公立施設とは、都道府県や市町村が設置した施設である。
- ・1995年に発足した全国公立文化施設協会という全国組織がある。これには公立文化会館が加盟する。
- ・地方自治法第244条「公の施設」の規定に基づき、地方公共団体が条例を制定し、設置。
- ・公の施設は公園、集会所、公営住宅、スポーツ施設、高齢者施設を含み、全国に30万を超える。
- ・公立文化会館は2200館余り存在し、年10回程度の自主事業を実施しているのが1000館余りで、残りの1000館余りは貸館だけの事業を行っている。
- ・公立文化会館の問題点

##### 2) 公立文化会館の問題点

公演活動への柔軟な対応ができず、批判が寄せられるようになり、会館事業・運営への柔軟性、専門性が求められ、地方公共団体は文化振興財団を設立して、運営を委託する流れが作られた。

##### 3) 指定管理者制度の導入とさらなる問題

指定管理者制度の目的である住民サービスの向上と経費節減のうち、経費節減のみ進み住民サービスの向上に十分寄与していない。

##### 4) 公立文化会館は何のために存在するのか

人々に実演芸術の創造と公演、鑑賞と参加の機会を提供するため。



プログラム5の様子

#### ⑥プログラム5【技術部会・実技】

### 『風によせがき』より 弾き語り・アカペラ・詩の朗読 サウンドチェック

前日実施した野沢香苗のサウンドチェックをベースに、アカペラグループのチキンガリックステーキ、シンガーソングライターのせきぐちゆき、詩の朗読と映像のコラボレーションという、それぞれジャンルの違った音楽スタイル、演出を軸に実践リハーサルを実施した。研修生には、限られた時間の中での、アーティストの要望への対応や、お客さんへの見え方などを考え実行する難しさや、臨機応変な対応の重要性を感じることができた。

また、ここでは研修生の技術職員の中から数名、実際にアーティストの音響及び照明のオペレーターとして参加頂いた。照明に関してはオペレートだけでなく、演出プランも任せて、本番（プログラム7）で実践して頂くという斬新なプログラムであった。



研修会総括の様子

#### ⑦プログラム6【合同】

### 研修会総括

今回本番（プログラム7）で音響及び照明をオペレートする研修生に、リハーサル等を終えて、本番にのぞむ感想等を発表して頂き、技術的な面だけでなく創造的な取り組みも行うことについて新たな可能性を実感して頂いた。

#### ⑧プログラム7【合同】

### 『風によせがき』 ミニコンサート

【出演】野沢香苗氏（二胡演奏）

チキンガリックステーキ（アカペラ）

せきぐちゆき氏（弾き語り）

blanca（沢口千恵氏）（詩の朗読）

【特別出演】松井五郎氏（作詞家）

【講師】山形裕久氏（演出家／自主文化事業部会長）

## 事業を終えて

#### 参加者数・参加施設数

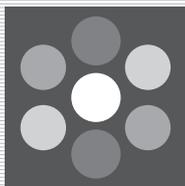
参加者数 63名

参加施設数 33施設

#### 事業の評価・今後の課題

今回、初の試みとして技術職員・アートマネジメント【自主文化事業】研修会の合同開催を実施したが、参加者から「劇場法に基づく劇場・音楽堂等が置かれている立場を考えた上で、大変意義があったのではないか」という意見が多数あった。しかしながら、日程

的にも技術・自主合同で行うには無理があるのではないかという意見もでた。全体的には、専門分野以外のことについては、経験しないと分からないことも多く、また実際には事業・事務担当者も舞台技術者も一体になって一つの事業が成り立つものであることから、今回の合同研修という形に対して高評価を頂いた。今後もこの形が良いのかどうかは、要検討ではあるが、もし合同というスタイルであれば、スケジュール的にどの立場でも参加しやすい充実した内容がより必要になると考えます。

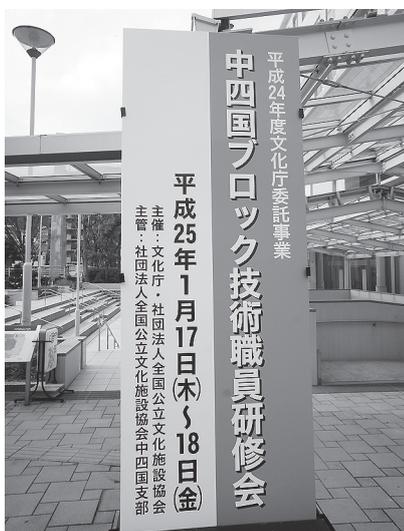


# 中四国ブロック 技術職員研修会



## 開催要項

- |          |   |
|----------|---|
| ① 事業名    | 平成 24 年度中四国ブロック技術職員研修会  |
| ② 趣旨     | 劇場・音楽堂等の職員を対象として、技術職員に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資する。  |
| ③ 主催     | 文化庁・(社)全国公立文化施設協会   |
| ④ 主管     | (社)全国公立文化施設協会中四国支部  |
| ⑤ 開催期間   | 平成 25 年 1 月 17 日(木)～1 月 18 日(金) 【2 日間】  |
| ⑥ 会場     | あわぎんホール (徳島県郷土文化会館)<br>〒 770-0835 徳島市藍場町 2 丁目 14 番地<br>TEL 088-622-8121 FAX 088-622-8123                                      |
| ⑦ 日程及び内容 | 別紙のとおり  |
| ⑧ 受講者    | (1) 劇場・音楽堂等の技術担当職員 (指定管理者又は舞台業務受託者に属する者を含む)・文化行政主管課等の文化担当職員<br>(2) 民間舞台技術関係者、大学等の高等教育機関のアートマネジメント・舞台技術の教育関係者・学生等及びこれに関心のある市民等 |



会場のあわぎんホール

研修計画・日程

	時間	内容	会場
1月17日 (木)	13:30 ~	受付	ホール
	14:00 ~	開講式	ホール
	14:10 ~	<b>プログラム1</b> 劇場音楽堂概論 (80分) [講師] 伊東正示氏 (株式会社シアターワークショップ代表取締役)	ホール
	15:30 ~	休憩	
	15:45 ~	<b>プログラム2</b> 舞台音響設備の運用と基本操作 ～近年の音響調整卓におけるデジタル化への変遷～ (60分) [講師] 岡林昌明氏 (ヤマハ株式会社 PA 事業部第2 開発部技師)	ホール
	16:45 ~	休憩	
	17:00 ~	<b>プログラム3</b> 舞台音響設備の運用と基本操作 ～公立文化施設における音楽ミキシングの実際～ (100分) [講師] 久川俊秀氏 (日本舞台音響家協会理事・高知市文化プラザかるぼーと副館長)	ホール
	18:40 ~	移動	
	19:30 ~ 21:00	交流会	ホテル グランドパレス
1月18日 (金)	9:30 ~	受付	
	10:00 ~	<b>プログラム4</b> 舞台技術管理 ～舞台職員として知っておきたいこと～ (100分) [講師] 沖田考文氏 (公益社団法人日本照明家協会四国支部安全委員長・ 高知県立県民文化ホール舞台技術委託職員)	ホール
	11:40 ~ 11:50	閉講式	



受付の様子



開講式の様子



### はじめに

中四国地区における公立文化施設技術職員の舞台技術に関する専門的研修を実施することにより、公立文化施設の活性化はもとより、地域における芸術文化の振興を図ることを目的として研修を実施した。昨年度の研修では実技として「照明」をテーマとしたことから、今年度のメインプログラムのテーマには「音響」を設定した。近年はアナログからデジタルへと急激に進化しており、そのことも意識的に取り入れたプログラム内容となっている。

また、東日本大震災以後、舞台の「安全管理」という点がクローズアップされ、各施設の興味・関心が持たれる内容であることから、プログラムの1つとした。実務経験3年以下の技術職員が対象ではあるが、近年参加者数が低迷していることなどから、幅広い経験年数の方や、技術職員に限らず、事務担当職員なども参加できるプログラムを組み入れた研修プログラムとなっており、有意義な研修が実施できたと考えている。

### 研修内容

#### プログラム1

#### 劇場音楽堂概論

【講師】伊東正示氏（株式会社シアターワークショップ代表取締役）

#### 公立文化施設の変遷について

第1世代から第4世代までに分類してご説明いただいた。第1世代は施主の時代であり、公会堂や市民会館など大会・集会所が目的のものから始まった。後に名称は、文化会館や文化センターになったが、あくまで多目的ホールである。多目的は無目的とも呼ばれ、批判されることも多いが、ホールがあったからこそ、その街の文化が栄えてきた一面もあるのは事実である。

第2世代は芸術家の時代である。批判のあった多目的ホールから主目的ホールへと移り変わり、お客様の声よりも実際に舞台上立つ人の声が優先されてきた。「文化」ホールから「芸術」ホールという名前が付き始め、パフォーミングアーツセンターと呼ばれる施設も登場した。1990年代は、ハード（中身）は良いが観客がいないという時代になってしまう。

そこで、第3世代である観客の時代（創客の時代）が登場する。今度は舞台側の人間ではなく、客席側の人間を大事にしていこうという時代である。まちづくりのために芸術文化を活用しようという機運が高まり、行政から市民に軸足が移った時代でもある。

そして、第4世代。次の世代の象徴として登場したのが「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」であろう。法律や指針案を見ていくと「質が高い」「鑑賞型」という言葉が溢れている。もちろん、そのようなホールは必要ではあるが、それに漏れた残りの大多数の施設はどうすればいいのか、そこが見えてこない。

#### 劇場音楽堂の定義

劇場とは、舞台芸術の上演を目的として建設された空間であるが、舞台芸術の上演に使用される空間とも言える。例えば、駅前広場などでパフォーマンスをした場合、駅前広場は劇場と呼べるのではないだろうか。



伊東正示氏による「劇場音楽堂概論」の講義

つまり、どのようなところでも劇場空間になるということである。ちなみに「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」では、「実演芸術の公演を企画し、又は行うこと等により、これを一般公衆に鑑賞させることを目的とするもの」とあり、舞台芸術の上演を目的として建設された空間に戻ってしまっている。

### 第3世代の重要性

第4世代はこれからの世代であり、現時点では第3世代（＝観客の時代、創客の時代）が続き、重要度も高い。客席をとってみても半分は市民が使うものであるから、開館の基本構想設計など早い段階から市民参加が求められ、市民の声を聞くことが重視されている。

具体的事例として「黒部市国際文化センター・コラーレ」や「北上市文化交流センター・さくらホール」を挙げ、初期段階からの市民ワークショップはもとより、Jリーグを参考にしたホールサポーター組織を設立した点などを紹介された。例に挙げたものは、「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律」で謳われているものとは違うが、芸術文化を根付かせるという意味からも、まだまだこうした観点が必要なのではないだろうかとのことだった。

## プログラム 2

### 舞台音響設備の運用と基本操作

～近年の音響調整卓におけるデジタル化への変遷～

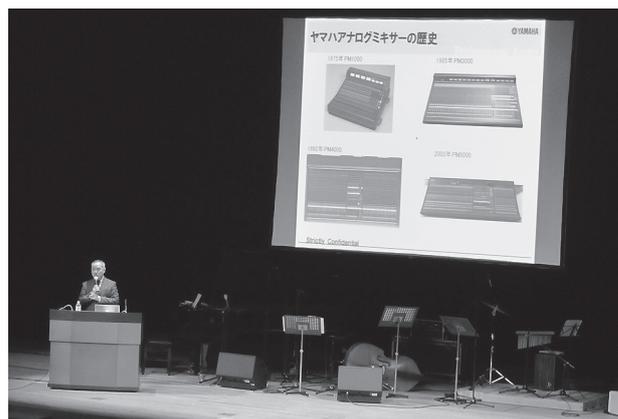
【講師】 岡林昌明氏（ヤマハ株式会社 PA 事業部第2開発部技師）

#### デジタルミキサーの変遷

ヤマハ株式会社では、デジタルミキサー発売から25年が経過した。デジタルミキサーでは、楽器をまとめるミキサーからスタートし、デジタルレコーディング用のミキサーのデジタル化、ライブサウンドのデジタル化へと進んでいった。2005年以降は、ライブミキシング環境をより手頃な価格、手頃なパッケージサイズを伴うべく、いわゆる小規模・中規模のデジタル化を進めてきたというのが簡単な変遷である。

#### 大型コンソールからデジタルコンソールへの移行

昨今、音響に求められる演目の多様化、複雑化、入出力の規模の増大化で、ミキサーにも再現性が求めら



岡林昌明氏による「舞台音響設備の運用と基本操作」の講義

れている。これはデジタルミキサーにしか出来ないことである。再現性、安定性、品質などからデジタルミキサーが主流となっている。開発としては、デジタル化はほぼ終わっており、これからはデジタルのメリットを活かしたものとなっていこう。

アナログミキサーは何が問題だったのかというと、まず大きくて重いことが挙げられる。色々な信号経路とのバッティングなどがあり、ノイズと戦わなければならない。また、全ての回路、いくつもの電気部品に音が通っており、どうしても故障が起り、そのメンテナンスが大変である。それから再現性がなく、曲ごとにミックスを変えたりすることは出来ない。そもそも、チャンネル数に応じてコンソールは大きくなるが、限界があるなどが挙げられる。

#### デジタル化することのメリット、デメリット

メリットとしては、再現性が最大のポイントであり、進化するミックスが可能である。その他、軽量・省スペースや低消費電力、データの互換性があることが挙げられる。また、周辺機器の統合もメリットである。従来はミキシングコンソールとグラフィックイコライザー、コンプレッサー、エフェクターと積まなければならないが、コンソール内のデジタル機能を活かして周辺機器を統合することができる。

一方、デメリットはというと、操作性・互換性の問題が挙げられる。また、レイテンシーの問題があり、デジタルは音が遅れることも挙げられる。デジタル処理のところで2mm/sec程度遅れる。実際にアナログでは遅れていなかったものが、デジタルでは遅れてしま

う。ただし、2mm/sec というのは、人は遅れていると捉えず、音色<sup>おんしょく</sup>の変化と捉える。実験では、2mm/sec を超えると違和感を感じ、10mm/sec を超えると遅れていると感ずるといふ結果がある。

最後は「CL シリーズ」の開発風景の写眞などを交えて、どのようにデジタルコンソールが開発・制作されていくかご紹介いただいた。

### プログラム 3

## 舞台音響設備の運用と基本操作

～公立文化施設における音楽ミキシングの実際～

〔講師〕久川俊秀氏（日本舞台音響家協会理事・高知市文化プラザかるぼーと副館長）

### 公立文化施設における音響技術のニーズの多様化

本来、業者が入るべき催事に対して、近年、会館職員での対応が求められている。背景としては不況による低予算化が一番大きい。会館にお願いすれば何でもしてくれると思っているお客さんも多く、本来はそこまで出来ないが受けなければならないこともある。特に地方の会館や小規模ホールでの技術的要望が高まっているように感じる。

### 催事の種類と音響技術

講演会レベルでは、ほとんどが会館で対応していると思うが、シンポジウムや学会となると、全体の流れ、看板やステージのレイアウトなどを含めて業者が入ってくる場合も多い。地域の音楽系催事などは、本来、業者に対応していただきたいところだが、会館での対



石田良花クインテットによる音楽ミキシングの疑似体験の様子

応への要望が高まっている。

### 多チャンネルミックスを行う上で知っておきたいこと

#### ・マイクについて

マイクロホンをたくさん使用する際にどのように対応するのか、知っておいたほうがいいことは、まず、マイクロホンの種類を知っておく必要がある。また、同時にマイクロホンには指向性があり、簡単に言うと、どこから入った音に敏感で、どこから入った音に対して鈍いかということも知っておく必要がある。

#### ・施設既存設備の状況把握

ミキシングコンソールの性能は多種多様で、例えば、今日使用している「CL-5」であれば72チャンネルである。スピーカーシステムの状況については、そもそも会館既存設備というのは、講演会などのスピーチをベースに調整されているものが非常に多い。例えば、音楽系の場合には、それより求められる音量が当然大きくなり、大きい音量を作ってフェーダーを上げた時に、ハウリングを起こしたりするので、再調整をする必要がある。

#### ・周波数特性

人間の可聴範囲は20Hz～20kHzの間と言われている。楽器や人の声は、この周波数帯域すべてを出すことができるのではなく、各々出せる帯域がある。また、人間にはカクテルパーティー効果（聞きたい音を聞き分ける能力）もある。

#### ・本番までの流れ

打ち合わせ（日時、当日のタイムスケジュールの確認）→プラン作成（打ち合わせに従って、入力回線表、メイン・モニターシステムのプラン、マイク香盤表、転換計画等のプランの作成）→機器調達（使用場所への機器移動等）→仕込み（プラン表に従って実際の準備）→サウンドチェック→リハーサル（モニターバランスを含めた確認）→本番→バラシ

本プログラムでは仕込みまでをすでに終了した状態で、サウンドチェックから本番までを実際に行いながらご説明いただいた。

### マイキング及び音作りの要点

#### ・サウンドチェックした楽器

ドラム・アコースティックギター・エレキギター・

カホン・シンバル・ウインドチャイム・ウッドベース・グランドピアノ・篠笛・ボーカル

石田良花クインテットの皆様にご協力いただき、音楽ミキシングを疑似体験していただいた。今回はバンドで音作りをしてみたが、実際にすぐ実践できる方には実践していただき、すぐには出来ない方にもこれ以上のことは業者に外注したほうがよいという線引きの判断に使っていただける内容であった。

#### プログラム 4

### 舞台技術管理

～舞台職員として知っておきたいこと～

[講師] 沖田考文氏 (公益社団法人日本照明家協会四国支部安全委員長・高知県立県民文化ホール舞台技術委託職員)

#### 舞台用語・用品の基礎知識

ホール管理者だけでなく、ホール使用者(主催者)も含めて覚えていただくことで、用語が煩雑にならないで済む。例えば、客席から向かって右側が上手<sup>かみて</sup>と、一定の場所として説明が付きやすい。具体的説明では、国旗掲揚の仕方について「国旗の制式及掲揚方法に関する件」という昭和5年の内閣書記官長による通牒「国旗1 旒掲揚ノ場合ハ門内ヨリ見テ右(門外ヨリ見テ左)ニ掲揚スルヲ望マシク……」から、下手に掲揚することが正しいというようなものもあった。

#### 保守管理業務

保守点検では、入札制度により専門のメーカーではないところが関連づけて落札してしまうことがある。例えば、音響関係の保守でPA屋と呼ばれる音響会社が保守をする。そうすると、ただ単に音が鳴れば正常と判断されてしまう危険性がある。しかし、本来、保守というのは、データを専門的な機械でとり、経年的な劣化を測定していくことなのである。そうしたことを防ぐには、測定方法などを入れた仕様書をきちんと整備する必要がある。

#### 安全管理業務

一日の始まりから終わりまでに様々な危険がはらんでいるので、事前に確認しておくことが重要である。



会場の様子

作業灯、袖明かり、搬入口明かりなど会館職員が当たり前のことと思っていることでも、実は乗り込み業者などはすぐに分からないことが多い。その他、搬入車両、送迎車両の調整や入場者の待機場所調整、自転車の駐輪方法なども確認しておく必要がある。

#### 災害避難誘導業務

色々な災害や火災などに対し、避難誘導し、人命を第一に訓練等を行わなければならない。防火管理者を置く必要もあるし、当然、消防署と連携して訓練も行っていると思うが、主催者や業務委託している業者などにも声を掛けて行う方が良い。消火設備については、簡単ではないものも結構あり、訓練で確認することが大事である。責任問題に発展させないためにも、まず、しっかりと設備を理解しなければならない。

#### 催し物の舞台設備操作業務

ホール設備には、コンピューター制御による特殊機材や古典芸能に使用される特殊な設備がたくさんあり、催し物の内容や古くからのしきたりを熟知しておかないと的確な本番操作が出来ない。

#### 打ち合わせ業務

様々なケースがあるが、最近は見積対応が多い。タイムスケジュールもない、マイクの本数も分からない中で要求され、対応に苦慮している。ざっくり出すことは出来るが、いす1つの単価から細かく決まっている中、内容が分からなければ金額が大幅に上下してしまう。その他、乗り込み業者への対応や物販、食事の許可等もこの業務に含まれる。

## 日常メンテナンス業務

主催者に不快な思いや不便をかけないよう日常メンテナンス業務を行う。使用頻度の少ない機材などをそ

のままにせず、時々電源を入れるなどのセルフクリーニングを行い、使用後はケースに収納するかカバーを掛けることが必須である。

## 事業を終えて

### 参加者数・参加施設数

参加者数 51名

参加施設数 29館

### 事業の評価・今後の課題

幅広い参加者を募るという観点から座学中心の研修内容となってしまう、仕込みなどを実際に体験していただくような実技型のプログラムを組み込むことが出来なかった。アンケート結果からは、実技研修を希望

する声もあり、今後は実技を取り入れたプログラムの実施についても検討する必要があると感じた。

しかし、どのプログラムを設定するにしても、所属の会館や参加者の経験等によって満足するプログラムは異なると思われるため、なかなか参加者全員に満足していただけるプログラムを設定するのは難しいように感じる。幅広い参加者を獲得するために浅く広く行うのか、あるいは、深く狭く行うのが今後の検討課題となると思われる。

## 九州ブロック技術職員研修会

## 開催要項

- ① 趣 旨 劇場・音楽堂等の職員を対象として、舞台技術に関する専門的な研修を行うことにより地域の文化芸術の振興と劇場・音楽堂等の活性化に資することを目的とする。
- ② 主 催 文化庁・(社)全国公立文化施設協会
- ③ 開催期間 平成 25 年 2 月 5 日(火)～2 月 6 日(水) 【2 日間】
- ④ 会 場 長崎ブリックホール (大ホール)  
〒 852-8104 長崎市茂里町 2-38  
TEL 095-842-2002
- ⑤ 対 象 者 劇場・音楽堂等の経験年数の比較的浅い舞台業務担当者(指定管理者または舞台業務委託者に属するものを含む)・文化芸術行政担当職員及び、民間舞台技術関係者、大学等の高等教育関係機関のアートマネジメント・舞台技術の教育関係者・学生等、及びこれに関心のある市民等。
- ⑥ 研修内容
- I-1 劇場・音楽堂における安全管理(90分)  
講義「舞台空間の作業について」  
【講師】西村 充氏(元いわきアリオス舞台技術マネージャー)  
伊藤久幸氏(財団法人新国立劇場運営財団技術部長)  
【進行】花田昌明氏(公益財団法人宮崎県立芸術劇場舞台技術係長)
- I-2 劇場・音楽堂における安全管理(120分)  
講義「舞台空間の安全管理について」  
①基準協ガイドライン 2012 の運用について  
②東日本大震災を通じての安全管理について  
【講師】西村 充氏(元いわきアリオス舞台技術マネージャー)  
伊藤久幸氏(財団法人新国立劇場運営財団技術部長)
- II 舞台照明設備の運用と基本操作(270分)  
WS「光について考える 9 ステップ」  
【講師】岩村原太氏(京都造形芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員)



開講式の様子



### はじめに

本研修会の計画当初の段階では、当館（宮崎県立芸術劇場）は九州支部技術部長館として、2年間の技術研修会の主催館となっていたため、本年度を「安全管理」と「舞台照明」、次年度を「劇場運営」と「舞台音響」という枠組みで、2年間の研修内容の設定を行った。しかし、その後、(社)全国公立文化施設協会の公益法人移行に伴う次年度の役員改正に伴い、九州支部各委員も本年度1年間での改選となり、来年度の主催は他館に移ることとなった。主催の肩の荷が下りる安堵と共に、若干の思いが残るところもある。

研修内容の企画に際しては、対象を経験の少ない技術職員としているところ、また、昨年度のプロック別研修会のアンケートにおいて、実技項目への希望が多かったことを受けて、①できるだけテーマを限定することで受講者が受けとるものの密度を高めること、②受講者に全ての実技対応は難しくても実際に体感出来

る要素を配置し座学に終始しないようにすること、の2つを念頭に構成を行った。

また、設備や組織形態が様々である施設からの受講者に対して、新しい機器の紹介やそこに付随したテクニックの披露を行うことは、個々の職場環境への持ち帰りが難しいと考え、文化施設の関係者が対峙していかなければならない事柄の捉え方とそこにアプローチしていくための考え方を中心に、受講者が本研修会後も継続して考える知見を提示できることを鑑みて、講師の擁立を行った。

開催にあたっては、これまで九州では輪番による開催県（館）が単独で企画運営を行っていたものを、本年度からの新たな支部規定条項「部長館と会場館が協力して主催・運営を行う」に沿い、会場館の長崎ブリックホールと調整を行いながら準備を進め、また、運営に際しては会場館スタッフの多大な協力をいただいた。

### 研修内容

#### 第1日目（平成25年2月5日）

##### I-1 ● 講義

劇場・音楽堂における安全管理（90分）

#### 舞台空間の作業について

[講師] 西村 充氏（元いわきアリオス舞台技術マネージャー）

伊藤久幸氏（財団法人新国立劇場運営財団技術部長）

[進行] 花田昌明氏（公益財団法人宮崎県立芸術劇場舞台技術係長）

舞台空間で公演を行うために日々繰り返される作業（仕込み～本番～撤収）は事故と隣り合わせである。今回は、地域の多くの公立施設で行われる、講演会・式典といった催しのための仕込み作業を素材に、会場館舞台スタッフによる模擬作業を通して、作業上の安全に関わる要素（機構の昇降、吊り込み、迫り、高所作業台、転倒防止策、火災防止策等）、対策を講じるべき留意点や問題点について、実際の機器の操作を交

えて検証を行った。

##### ①作業前～搬入作業

劇場スタッフ、乗り込み業者、主催者（制作者）による、作業前ミーティングの実施を推奨。顔が分かるということと安全との関連。安全衛生管理体制の必要性について説明。

##### ②吊り込み作業

灯体の落下防止ワイヤーは、確実にアングルに掛けること。バトン等への仮設ケーブルの処理には、テープ類を使用しない。照明ブリッジ内での作業の留意点等について解説。また、模擬的に作成した看板を用いて、道具類の安全な懸垂方法、つり下げ部材（ワイヤー、金具類等）の安全率等について説明。

##### ③舞台上、舞台周辺の作業

ホールの迫り機構稼動時の転落防止対策、異業種混

在時の作業の制限の必要性と管理体制について検証。また、床上の設置機材等の転倒防止対策、特に、持ち込みスピーカースタック時の劇場側での転倒防止設備の必要性に言及。

#### ④調整作業

高所作業台（テレスコープ）を使用して、フォーカス作業の問題を検証。フォーカス作業時は、高所作業、暗所作業が混交し、非常に危険な作業環境であるが、労働基準法（労働安全衛生規則）を順守した場合の作業効率の低下が甚だしいため、施設毎に様々なローカルルールで運用をしている状況がある。また、施設内においても、現場スタッフ以外の部分に、法規と現実の隔たりが認識されていない場合が多いが、有事の場合には即、管理者の責任にも結びつくものである。少なくとも事故を起こさないために、効率を落とさず、かつ、安全に作業を行うための、最低限の自主管理の方法について言及。また、後述するガイドラインにおいても、今後、どのように取り扱っていくのかという問題定義を行った。

#### ⑤リハーサル～本番～撤去

禁止行為の解除、客席仮設時の届け出等、地域の消防署により、様々に判断が異なる状況を、事例を挙げて解説。また、消防署と協働し、施設としての信頼を得ることの必要性に言及した。

### I-2 ● 講義

劇場・音楽堂における安全管理（120分）

## 舞台空間の安全管理について

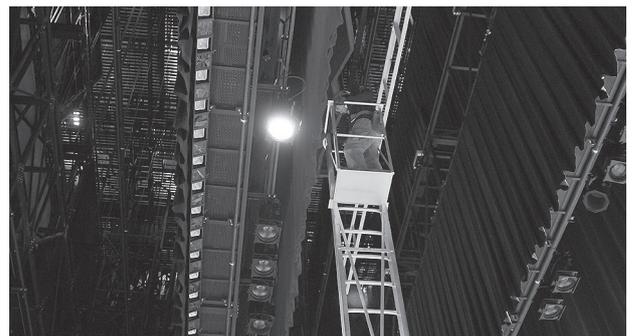
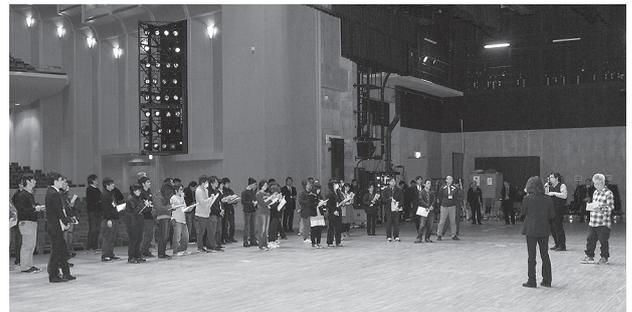
### ①基準協ガイドライン 2012 の運用について

[講師] 伊藤久幸氏（財団法人新国立劇場運営財団技術部長）

先の講義を踏まえ、現在、劇場等演出空間運用基準協会が改訂を進めている「劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドライン」の内容についての解説を行う。公演制作過程における各セクションで行われる作業の詳細とともに、舞台の現場における安全衛生管理体制の必要性について説明。公演にあたって責任所在を明確にすることが、事故の防止につながることに、また当たり前の小さな事柄の積み上げによって安全が確保されることに強く言及。当該ガイドラインは、現



「舞台空間の作業について」の講義の様子



北海道ブロック

東北ブロック

関東甲信越静岡ブロック

東海北陸ブロック

近畿ブロック

中四国ブロック

九州ブロック



「舞台空間の安全管理について」の講義の様子

在も改訂中であり、今後、高所作業、暗所作業といった法規と関わる問題も取り上げていく事になるが、そこにおいて、現場での作業効率を確保しつつ法規との整合性を勝ち得るためには、地域毎のローカルルールを超えて多くの施設が共通の意識を持って連帯することが必要であることを強調。なお、本講義のテキストとして、受講者には「劇場等演出空間の運用および安全に関するガイドライン」2012年版を配布した。

## ②東日本大震災を通じての安全管理について

【講師】西村 充氏（元いわきアリオス舞台技術マネージャー）

東日本大震災の被災地、福島県いわき市のいわき芸術文化交流館アリオスの事例を元に、当時の被害状況と避難所対応等の実情、その後施工した舞台設備を含む施設の防災対策等について、スライドを用いて説明。また、震災を通しての非常時の考え方として、予定していた連絡体制が機能しない状況で、頼りとなるのは職員個々の判断・対応能力にあることを述べ、同施設における組織内のプロジェクトチームを中心に実施をしている避難訓練の方法を紹介。

## 第2日目（平成25年2月6日）

### II ● WS

舞台照明設備の運用と基本操作（270分）

## 光について考える9ステップ

【講師】岩村原太氏

（京都造形芸術大学舞台芸術研究センター主任研究員）

地域において十分な時間を費やしなが、誠実な試行の積み上げをもって成立する舞台作品の創造に関わる機会は希少である。そういった状況の中で、地域の舞台技術者が、将来に渡って自身の仕事の足場をどのように据えられるのかということは、舞台芸術に携わる文化施設にとっても大きな課題と考えられる。この講義では、舞踊界の世界的カンパニー「山海塾」の照明デザイナーを務められている、岩村原太氏を講師として、経験の少ない技術者に対して、舞台作品（特に、未だ一般的にはその鑑賞や理解が十分に広まっているとは言い難い、コンテンポラリーダンス等を含む身体

表現）に対峙する際の、照明家としての姿勢と考え方、また、基本的な知識の伝達を試みた。講義の進行は、9つのステップを以下の3つのまとまりに分けて行われた。

(1)①光を見る（観る）

②光を使う（読む）

③光に触れる（動く）

舞台照明の話に入る前の導入として、会場ホワイエの建築照明、窓からの採光等を素材として、影の変化、色の変化、また建築上のアプローチと照明デザインが作る心理的な変化についての観察を行う。自然光が入る場所、間接照明、入口の華やかな明かり等、それぞれの場所における光りの質、量、方向性の違いと、それらが作る互いの顔の見え方や文字の見え方の違い、そして、そのことで生み出される心理的影響の違いを確認し、日常的な明かりの観察がどのように舞台照明へとつながっていくかを考察。

## (2)④光を運ぶ（順光・逆行・斜光×基本機材）

## ⑤光を合わせる（2つの光）

## ⑥光を組む（3つの光）

舞台照明の基本機材（レンズスポット、パーライト）を用いて、機材の違いと明かりの方向から得られる状態を確認。次に2つの機材を使用し、2種類の明かりを合わせることで得られる、光りの対比が生み出す効果（ドラマ）について説明。最後に3種類の光り（Key、Fill、Wash）を使用して、舞台照明における時間と空間の構築のための基本的な考え方について解説。ここでは、地元の実演家による、チェーホフの戯曲をテキストにしたモデル演技を素材に、3つの光りの実際の使用例を演出との関係を織り交ぜながら説明。

## (3)⑦光を変える（始まりと終わり）

## ⑧光も踊る（ソロ・ムーブメント）

## ⑨光で魅せる（デュオ・ムーブメント）

最初に、朗読を素材に、主に明かりの入り方が作る印象の違いについて検証。次に身体表現に対して、どのように明かりのアプローチを考えていくか、また、その表現が舞台上に生み出す空間をどのように扱うの

かということ、ソロ・ムーブメント、デュオ・ムーブメントを例に説明。ここでも地元の実演家を用い、この研修会のために振り付けを依頼した2分半程度のムーブメント作品を素材とした。その後、昼食休憩を挟んで、このムーブメント作品への明かり作りの実践を受講者内の希望者で行う予定であったが、実技への参加を希望する者が皆無であったため予定を変更し、受講者と講師の意見交換として、ここまでの講義に対する質問や感想を発言する場を設けた。受講者からは、「入場口から客席までの明かりが作る心理変化」や「3つの光りという考え方」等、様々に新しい視座を得たという意見が寄せられた。また、岩村氏の照明による、ムーブメント作品への回答を求める声が多くあったため、講義の最後を講師による照明デザインのデモンストレーションとした。講義解説用に仕込まれた概設の機材だけであったにも関わらず、演技者の動きとほぼ同時進行で明かりを作り、それが作品として成立していく過程は圧巻であり、受講者の間からも感嘆の声が上がっていた。最後に、カラーフィルターを使用する際の基本的な考え方を演技者を事例に説明。

岩村原太氏による「光について考える9ステップ」のWSの様子



## 事業を終えて

### 参加者数・参加施設数

受講者数 70名  
参加施設数等 公立文化施設 34館、舞台業者 2社、  
メーカー 5社

### 事業の評価・今後の課題

第1日目のテーマとした安全管理については、どうしても固い話がつづくこともあり、以前は老若を問わず敬遠されがちな雰囲気を感じることも多くあったが、今回の受講者より、改めて認識をし直したという声を数多くいただけたことは、講師の熱意に帰するところである。今回取り上げた基準協議会によるガイドラインと、各施設、業界団体等が今後どのように関係していくかについては、性急に求めるべきではないであろうが、例えば、舞台現場の作業環境と現在の関連法規との間には深刻な溝が存在しているということをとっても、それを施設全体で認識していることが、個々の組織を守ることに繋がるのではないかと考える。仮に、舞台という特殊な場の就労環境を整えていくことを求めるのであれば、多くの施設が連帯する共通の認識をもって行政等に対峙していかなければ、現実の安全・安心と作業効率が並立する環境にはなり得ないと思われる。今後とも公文協を始め各種団体が実施する研修会等においては、積極的に問題の定義と認識の共有を得る努力を行っていく必要があると考える。加えて、災害時の危機管理に関しても、先の大震災から2年を経ようとし、さらにそもそもの震災体験が無い九州地域においては、既に喉元を過ぎているという雰囲気も見受けられるが、折に触れ警鐘を鳴らす必要があると考える。

2日目の岩村原太氏による講義は、内容、密度ともに十二分に受講者に得るものを提供できたと感じているが、本来、4、5回に分けて行う分量を半日に押し込めた形となり、駆け足になってしまったことは否めな

い。そのため技術関係の職員ではない受講者には、十分に咀嚼できなかった部分もあったと感じている。また、実技研修の方法として、用意された仕込みを元にした操作訓練的な形での実施は多く見かけられるが、今回は、作品への照明デザインのアプローチを考えるといった少々漠然とした課題を準備したため、受講者にとっては、どのように手を付けて良いのかが分からないという状況を作ってしまったようである。少人数かつ時間の許す状態であれば成り立ったのではないかと思うが、本研修会で実施するのであれば、課題については講師と共にもう少し綿密に整理しておくべきであったという反省を持つ。しかし、結果的に岩村氏の明かり作りの過程を間近に見られたことは、受講者（特に若い照明技術者）にとっては僥倖であったかもしれない。

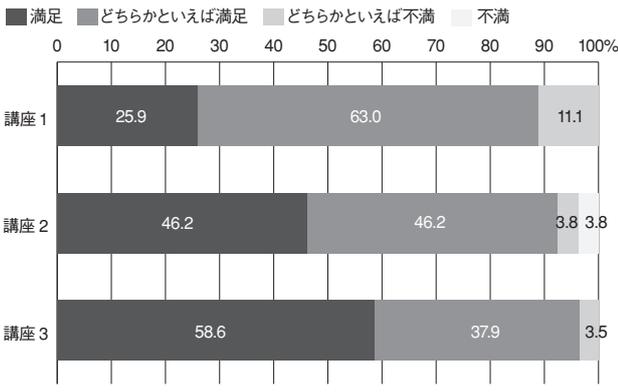
最後に、今回、研修会を主催して改めて思うことを記す。公立文化施設の有り様においては、当然、地域の特性に合わせた差異が生じるべきであるが、その根幹とするところ——なぜ文化施設が在るのか、また、必要だと考えるのかといった問い——には、共通の定義がなければならぬと考える。また、舞台技術、アートマネジメント、業務管理とセクションは違っても、根本を同じくした上での専門性でなければ、有効な力は持ちえないと考える。しかしこのことに関して、我々公立文化施設に関わる者の間で、これまでに十全な議論が成されているようには思えない。人材の育成、特に若い世代の育成について言えば、自身の仕事が何に立脚しているかということの認識が一番重要ではないかと思えるが、それが様々であることを「地域性」という言葉で一括りにしている部分はないだろうか。公立文化施設の存在の必要性をどのように定義するかは、今後の研修会等の実施のみならず、来年度、公益法人に移行する公文協において、吃緊の課題なのではないかと考える。

# 北海道ブロック技術職員研修会

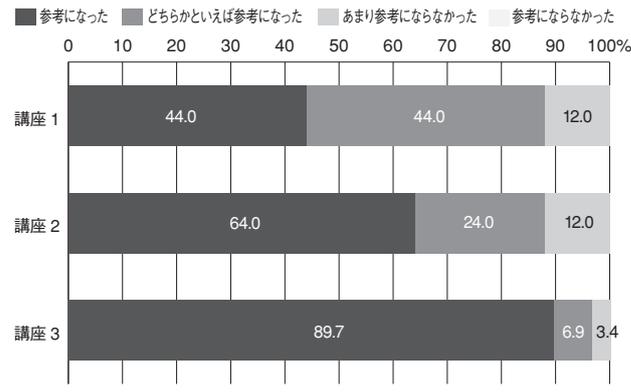
## 評価アンケート結果

■会場 札幌市教育文化会館 回答数 31 枚

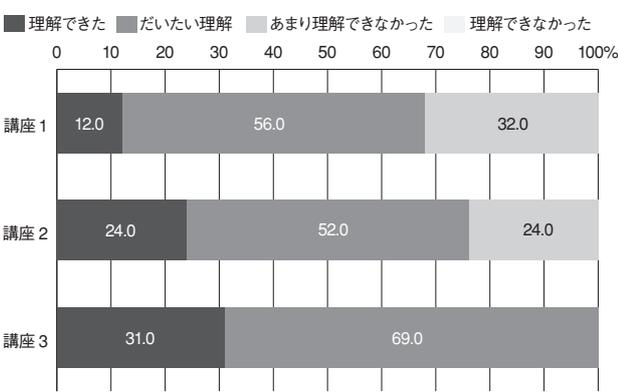
### 1. プログラムの評価 満足度 (%)



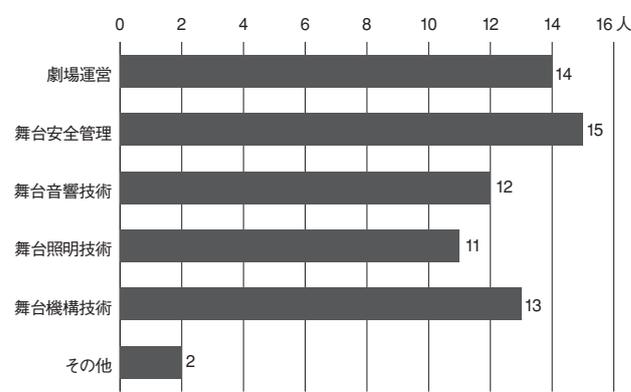
### 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



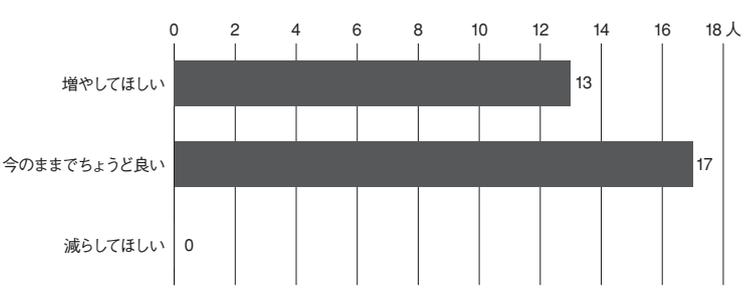
### 1. プログラムの評価 理解度 (%)



### 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



### 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？

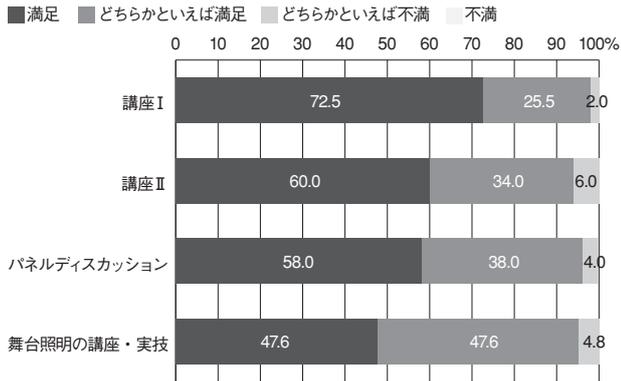


# 東北ブロック技術職員研修会

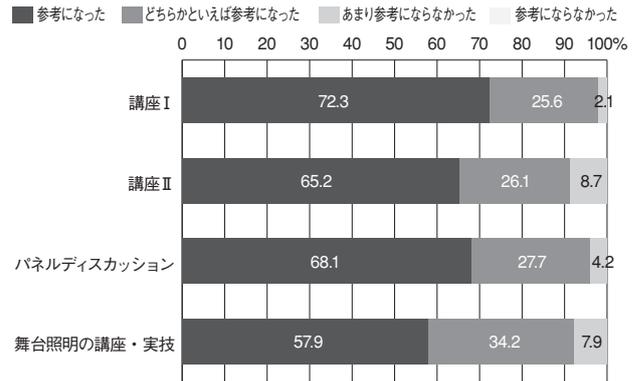
## 評価アンケート結果

■会場 秋田県民会館 回答数 52 枚

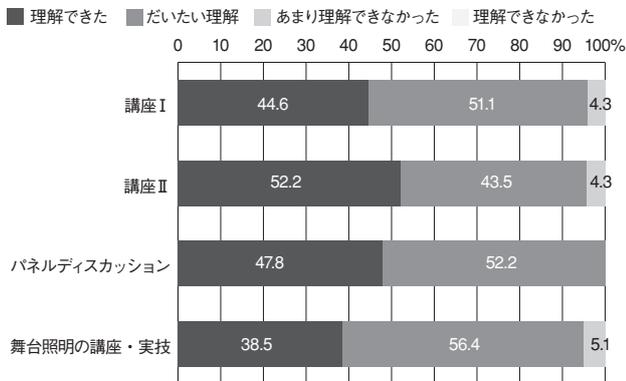
### 1. プログラムの評価 満足度 (%)



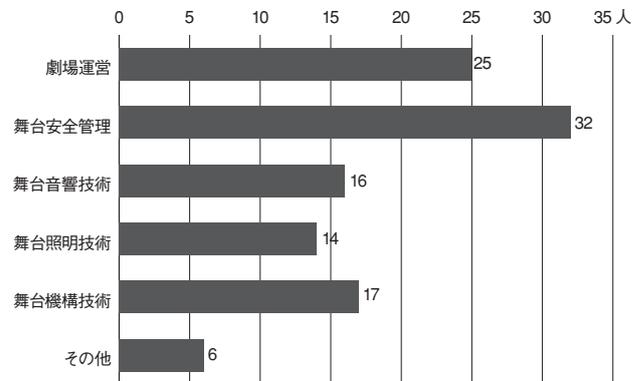
### 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



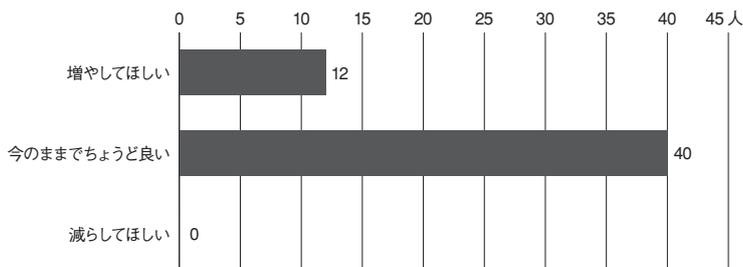
### 1. プログラムの評価 理解度 (%)



### 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



### 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？

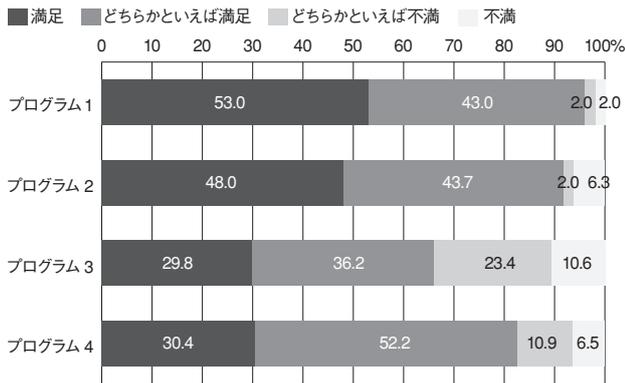


# 関東甲信越静ブロック技術職員研修会

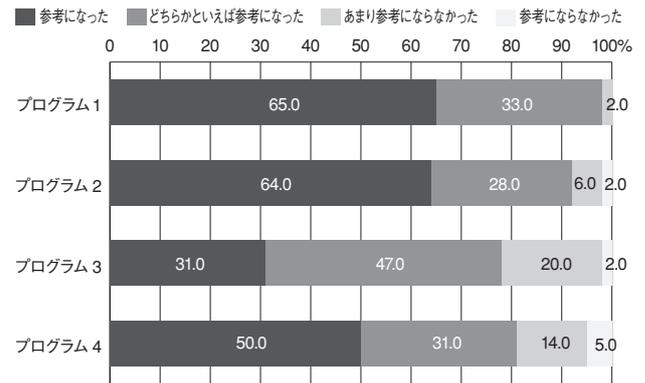
## 評価アンケート結果

■会場 コラニー文化ホール 回答数 54 枚

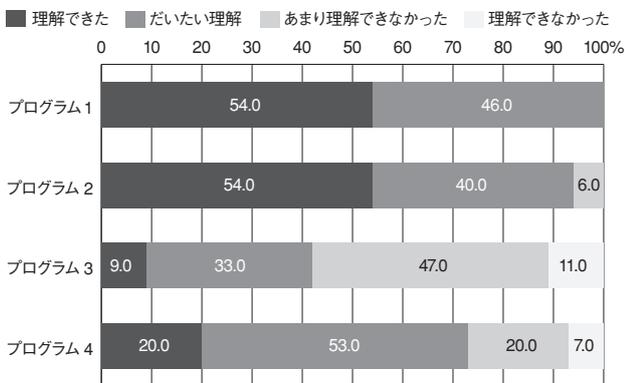
### 1. プログラムの評価 満足度 (%)



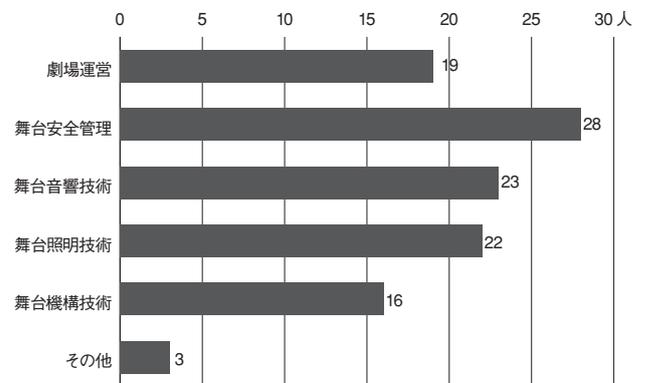
### 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



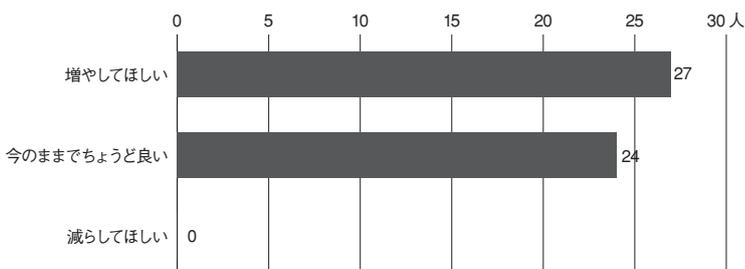
### 1. プログラムの評価 理解度 (%)



### 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



### 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？

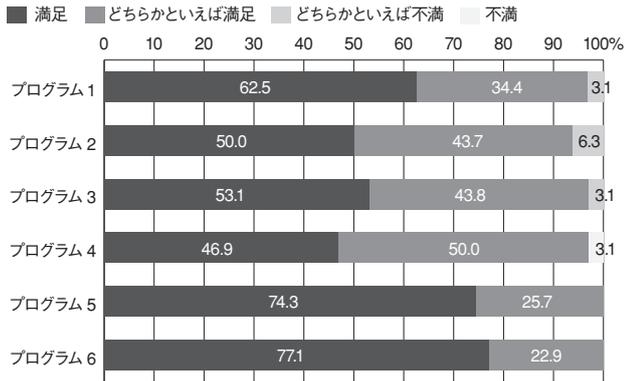


# 東海北陸ブロック技術職員研修会

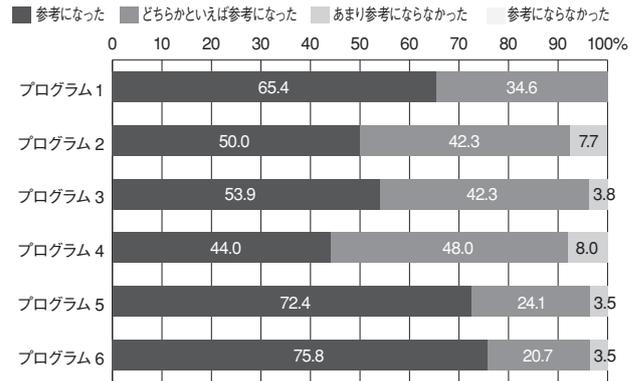
## 評価アンケート結果

■会場 富山市芸術文化ホール 回答数 37 枚

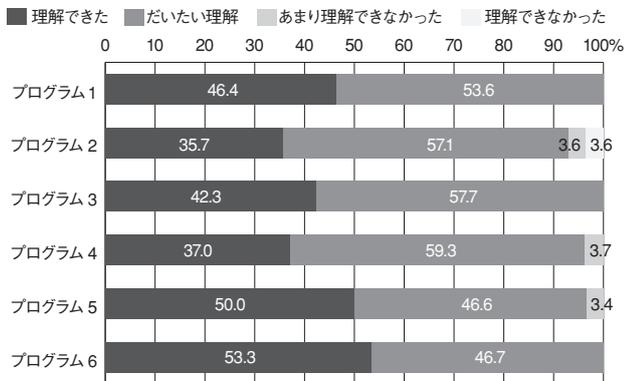
### 1. プログラムの評価 満足度 (%)



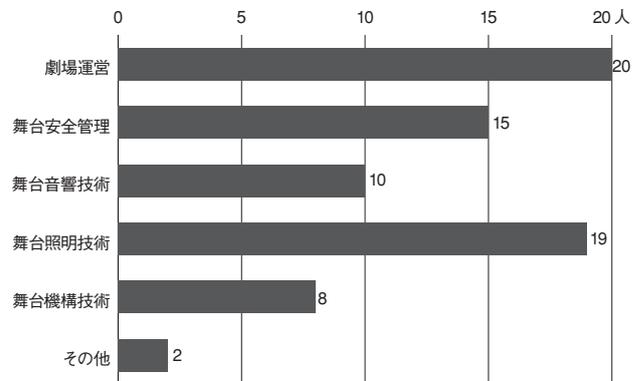
### 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



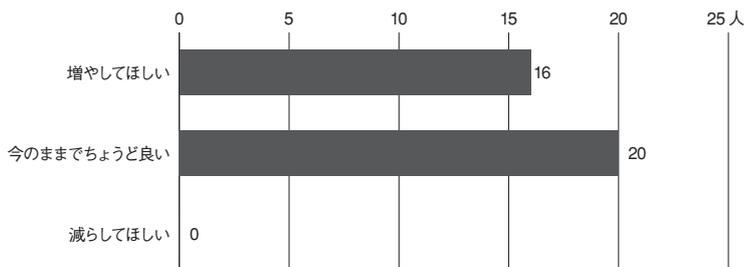
### 1. プログラムの評価 理解度 (%)



### 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



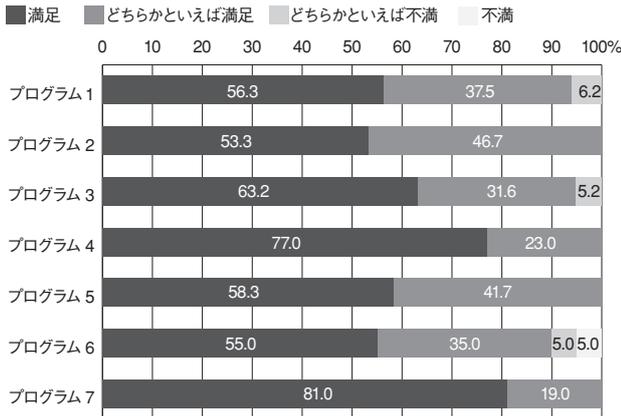
### 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？



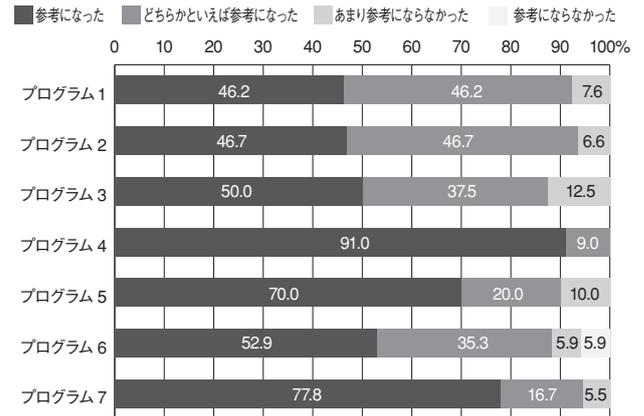
# 近畿ブロック技術職員・アートマネジメント (自主文化事業) 合同研修会 評価アンケート結果

■会場 貝塚市民文化会館 回答数 25 枚

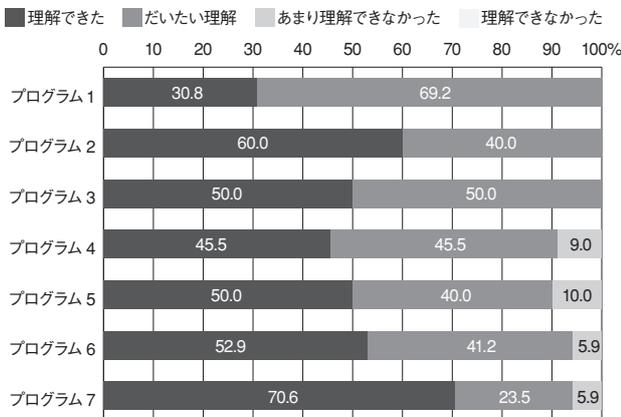
## 1. プログラムの評価 満足度 (%)



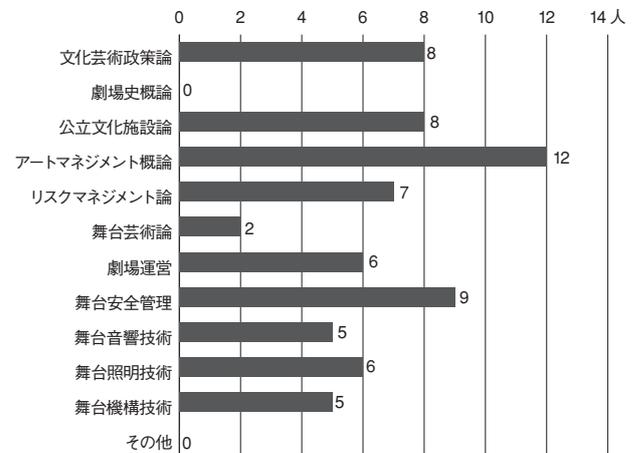
## 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



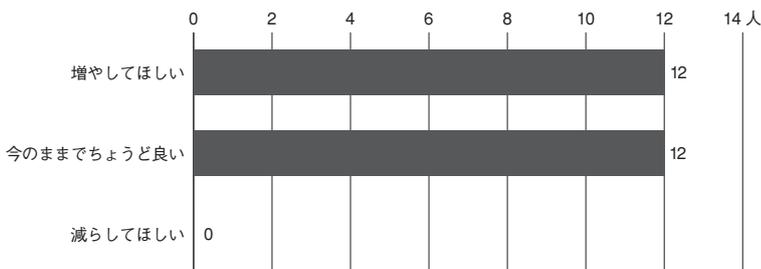
## 1. プログラムの評価 理解度 (%)



## 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



## 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？

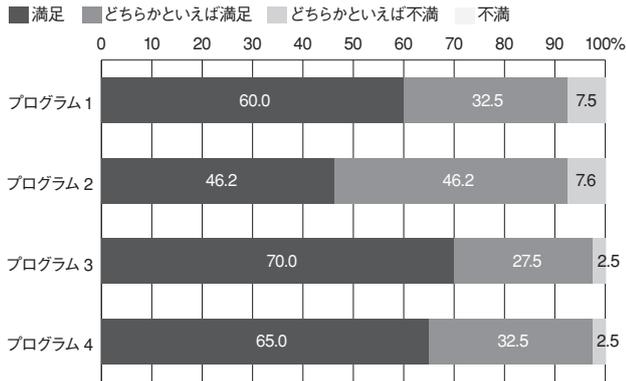


# 中四国ブロック技術職員研修会

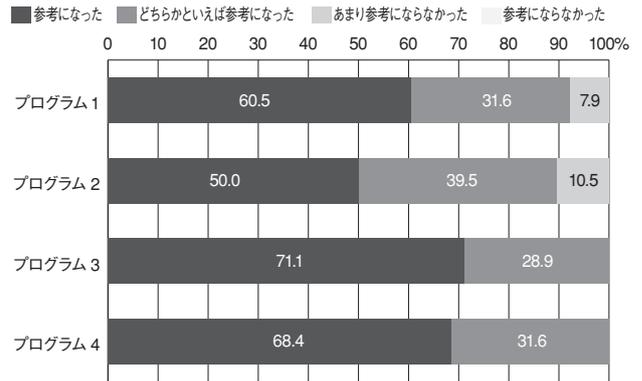
## 評価アンケート結果

■会場 あわぎんホール 回答数 40 枚

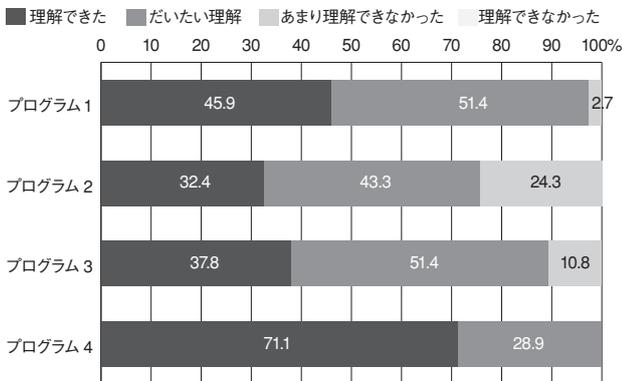
### 1. プログラムの評価 満足度 (%)



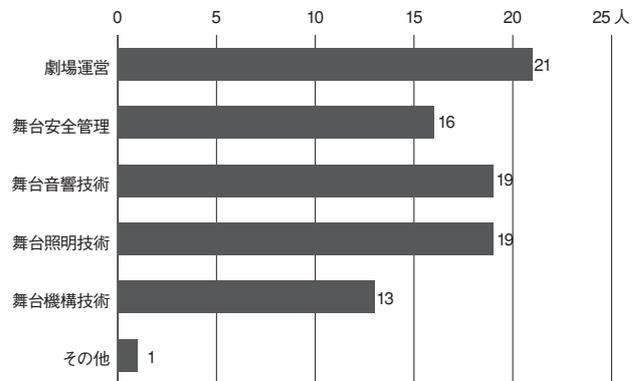
### 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



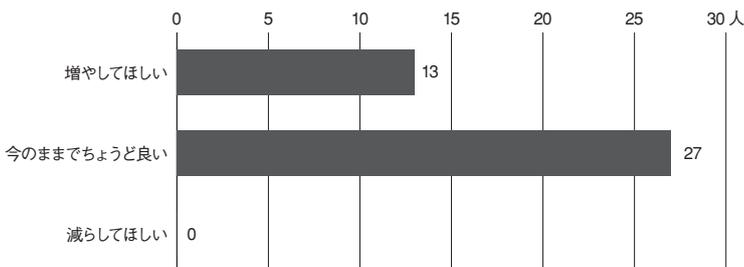
### 1. プログラムの評価 理解度 (%)



### 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



### 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？

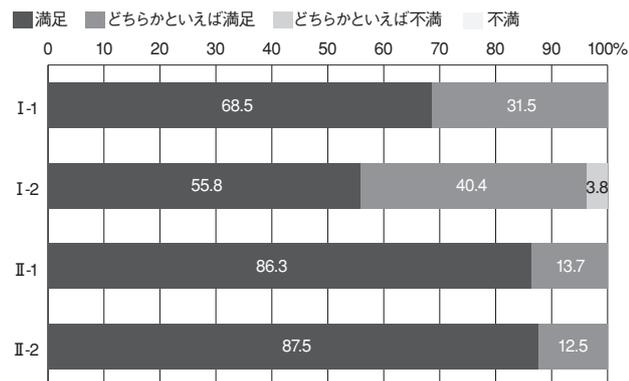


# 九州ブロック技術職員研修会

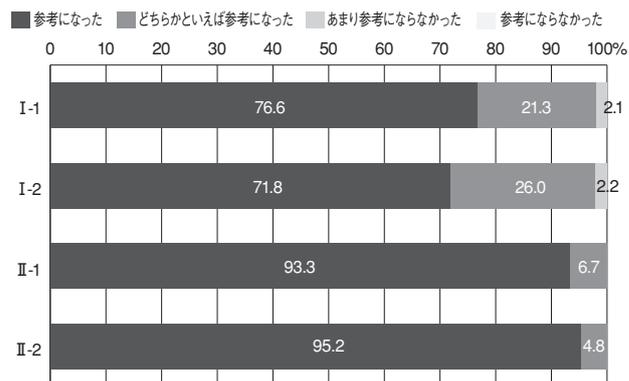
## 評価アンケート結果

■会場 長崎ブリックホール 回答数 54 枚

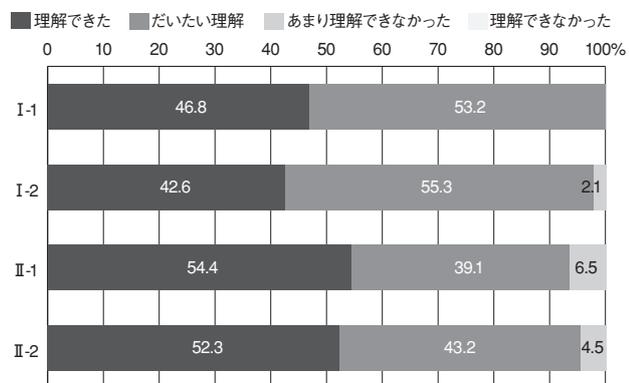
### 1. プログラムの評価 満足度 (%)



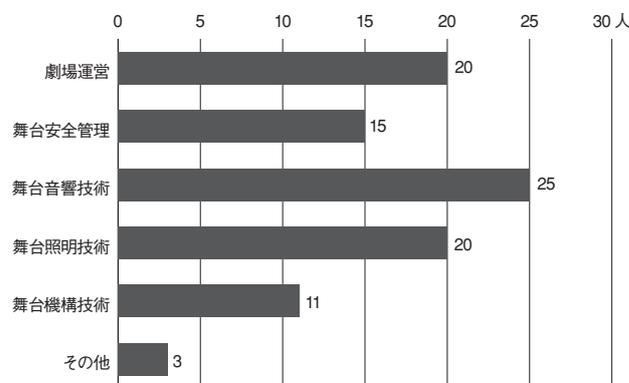
### 1. プログラムの評価 役立ち度 (%)



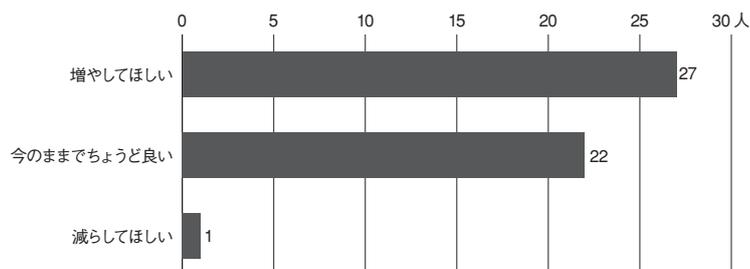
### 1. プログラムの評価 理解度 (%)



### 2. 今後受けてみたい研修会のテーマ



### 3. このような研修会の機会をもっと増やして欲しいですか？





平成 24 年度  
ブロック別 劇場・音楽堂等技術職員研修会 実施報告書

---

平成 25 (2013) 年 3 月 発行

■編集・発行……………社団法人 全国公立文化施設協会

〒 104-0061 東京都中央区銀座 2-10-18

東京都中小企業会館 4 階

TEL : 03-5565-3030 / FAX : 03-5565-3050

E-mail : bunka@zenkoubun.jp

URL : <http://www.zenkoubun.jp/>

■印刷・製本……………株式会社トービ

■表紙・扉デザイン……………DICE DESIGN 土橋公政

■編集協力……………有限会社 麦人社

---